

林中原 I 遺跡 XVIII

水源地域整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 第6集

二〇二〇年

2020

群馬県吾妻郡長野原町教育委員会

長野原町埋蔵文化財調査報告 第42集

はやし なか はら いち
林中原 I 遺跡 XVIII

水源地域整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 第6集

2020

群馬県吾妻郡長野原町教育委員会

序 文

長野原町内には、縄文時代中期後半の拠点集落である長野原一本松遺跡・横壁中村遺跡や天明3年の浅間山の大爆発により発生した泥流被災状況を伝える東宮遺跡・小林家屋敷跡に代表されるように、多数の貴重な遺跡の存在が知られています。

教育委員会では、文化財保護事業の一環として、町の貴重な文化遺産である遺跡を保護するとともに、失われていく遺跡の記録保存に努めています。

林中原Ⅰ遺跡はこれまでの発掘調査で、縄文時代中期後半から後期前半の拠点集落や中近世の林城跡があることが知られています。今回報告する第18次調査は、町営林団地造成に伴う調査であります。調査面積は僅かでしたが、縄文時代後期前葉の遺物集中と土坑・溝が発見され、拠点集落の外縁地域の一様相を把握することができました。本書が町民の皆様をはじめ多くの方々に活用され、郷土長野原の歩んできた道のりを知る一助となれば幸いです。

最後に、調査にあたって各方面から多大なるご指導・ご協力をいただき厚く御礼申し上げます。

令和2年3月

長野原町教育委員会

教育長 市 村 隆 宏

例　　言

1. 本書は、群馬県吾妻郡長野原町大字林字中原に所在する林中原Ⅰ遺跡（18次）の発掘調査報告書である。
2. 調査は町営林団地造成に伴う事前調査として、長野原町の委託を受けた長野原町教育委員会が実施した。
3. 発掘調査から調査報告書作成に至るまでの調査事業費は、水源地域対策特別措置法第12条による負担金が充てられた。
4. 調査は発掘調査を平成31年4月17日から令和元年6月11日迄、整理調査及び報告書作成を令和元年6月12日から令和2年3月30日迄の期間実施した。
5. 本遺跡の出土遺物ならびに図面・写真は全て長野原町教育委員会が保管している。
6. 本書は富田孝彦が編集・執筆した。各作業分担は以下の通りである。

　　編集・執筆：富田　　遺構・遺物写真撮影：細川・藤野　　遺物実測・トレース：柿本・坂井・藤野
　　図版および写真図版作成：向出

7. 本書中の遺跡名は調査が数次にわたっている場合はそれを識別するために遺跡名の最後にロー マ数字を表記してある。同一遺跡内の別地点と解釈していただきたい。

　　例）林中原遺跡 XVII　（遺跡名）（第18次）

8. 調査において以下の項目の一部を委託した。

　　表土掘削・埋め戻し：東光建設株式会社

　　測　　量：（株）測　研

　　出土剥片石器実測・トレース：（株）歴史の杜

9. 発掘調査、整理調査及び報告書作成にあたり、次の方々、団体から御指導・御協力を賜った。（五十音　順敬称略）

　　麻生敏隆・飯森康広・石田　真・小野和之・黒澤照弘・関　俊明・中沢　悟・藤巻幸男・向出博之・山口逸弘・吉田智哉

　　（株）歴史の杜・群馬県教育委員会・群馬県ハッ場ダム水源地域対策事務所・（公財）群馬県埋蔵文化財調査事業団・長野原町役場建設課・長野原町役場ダム対策課

10. 調査組織は次の通りである。

　　教　　育　　長　市村隆宏

　　課　　長　佐藤　忍

　　文化財保護対策室長　富田孝彦

　　文　　化　　財　係　高田靖之

　　調　　査　　担　当　者　細川剛史（地域おこし協力隊、～令和元年6月30日）

　　調　　査　　参　加　者　柿本六美・坂井春栄・藤野麻子・向出治恵

凡　　例

1. 本書で使用した地図は1:2500「長野原都市計画図」(長野原町1994)、1:25000「長野原」(国土地理院1997)である。
2. 掙図の方位は磁北を示す。
3. 掙図の縮尺については下記の通りであり、各掲図中に示してある。

遺構：遺物集中	……1/40	土坑	……1/30	溝状遺構	……1/60
遺物：復元土器	……1/4	土器片・礫石器類	……1/3		
剥片石器類	……1/1				
4. 遺構の略号については以下の通りである。 SU：遺物集中箇所 SK：土坑 SD：溝状遺構
5. 掙図に図示した遺物は、観察表にその内容を記してある。観察表における復原土器の法量は左側から器高、中央が口径、右側が底径を表し、計測数値は推定値を含む。（　）内の数値は現存値、<　>内の数値は復原値を表す。
6. 土器の色調に関しては、「新版標準土色帖1995年後期版」(編・著小山正忠・竹原秀雄、監修農林 水産省農林水産技術会議事務局、色票監修財團法人日本色彩研究所)の色名を参考にした。観察表において外面／内面の順で記した。
7. 掙図中のスクリントーン・記号は以下の通りである。

遺構・土層図



遺物



● 土器

▲ 石器

*土器における欠損部に関しては点描で表現している。

目 次

序 文

例 言

凡 例

第1章 調査概要.....	1
第1節 調査に至る経緯.....	1
第2節 調査の方法と経過.....	1
第2章 遺跡の立地と環境.....	4
第1節 遺跡の位置.....	4
第2節 周辺の遺跡.....	4
第3節 既応の調査.....	14
第4節 基本層序.....	18
第3章 検出された遺構と遺物.....	24
第1節 概 要.....	24
第2節 遺物集中.....	24
第3節 土 坑.....	29
第4節 溝状遺構.....	42
第5節 遺構外出土遺物.....	42
出土遺物観察表	
写真図版	
報告書抄録	

挿 図 目 次

第 1 図	遺跡周辺の河岸段丘面分布図 (1/35,000)	5
第 2 図	遺跡の位置と周辺の遺跡 (1/35,000)	6
第 3 図	林中原 I 遺跡調査地点位置図 (1/2,500)	15
第 4 図	基本土層 (1/20)	18
第 5 図	調査区全体図 (1/150)	23
第 6 図	SU01 実測図 (1/40)	24
第 7 図	SU01 出土遺物出土状況図 (1/40)	25
第 8 図	SU01 出土遺物実測図 1 (1/4・1/3)	26
第 9 図	SU01 出土遺物実測図 2 (1/3)	27
第 10 図	SU01 出土遺物実測図 3 (1/1・1/3)	28
第 11 図	SK01 ~ SK06 実測図 (1/30)	30
第 12 図	SK07 ~ SK12 実測図 (1/30)	33
第 13 図	SK13 ~ SK21 実測図 (1/30)	36
第 14 図	SK22 ~ SK29 実測図 (1/30)	38
第 15 図	土坑出土遺物実測図 (1/3)	40
第 16 図	SD01 実測図 (1/60・1/30)	43
第 17 図	SD01 出土遺物実測図 (1/4・1/3)	44
第 18 図	遺構外出土遺物分布図 (1/150)	44
第 19 図	遺構外出土遺物実測図 1 (1/4・1/3)	45
第 20 図	遺構外出土遺物実測図 2 (1/1・1/2・1/3)	46

表 目 次

第 1 表	周辺の道路	7
第 2 表	林中原 I 遺跡調査一覧	16
	第 3 表 林中原 I 遺跡 XVII 出土遺物觀察表	47

図 版 目 次

P L 1	1. 調査区遠景① (北東から) 2. 調査区遠景② (西真上から)	
P L 2	1. 調査区近景 (南真上から) 2. 基本上層 A (東から) 3. 基本上層 B (東から) 4. 基本上層 C (西から) 5. 基本上層 D (西から)	
P L 3	1. SU01 ① (北から) 2. SU01 ② (東から)	
P L 4	1. SU01 條出状況① (北から) 2. SU01 條出状況② (東から) 3. SU01 遺物出土状況① (北から) 4. SU01 遺物出土状況② (北から) 5. SU01 遺物出土状況③ (北から) 6. SU01 遺物出土状況④ (北から) 7. SU01 遺物出土状況⑤ (北から) 8. 作業風景	
P L 5	1. SU01 出土遺物①	
P L 6	1. SU01 出土遺物② 2. SK01 半截 (西から) 3. SK02 (南から) 4. SK02 半截 (南から) 5. SK03 半截 (南から)	
P L 7	1. SK04 (西から) 2. SK04 半截 (西から) 3. SK05 (南から) 4. SK05 半截 (南から) 5. SK07 半截 (西から) 6. SK08 (南から) 7. SK08 半截 (南から)	
P L 8	1. SK09 (南から) 2. SK09 半截 (南から) 3. SK10 (南から) 4. SK10 半截 (南から) 5. SK11 (南から) 6. SK12 (南から) 7. SK13 (南から) 8. SK13 半截 (南から)	
P L 9	1. SK14 (南から) 2. SK14 半截 (南から) 3. SK15 (南から) 4. SK15 半截 (南から) 5. SK16 (東から) 6. SK16 半截 (東から) 7. SK17 (東から) 8. SK17 半截 (東から)	

- P L 10 1. SK18 (南から)
2. SK19 (南から)
3. SK19 半截 (南から)
4. SK20 (西から)
5. SK21 (北から)
6. SK22 (北から)
7. SK22 半截 (北から)
8. SK23・SK09 (南から)
- P L 11 1. SK23 半截 (南から)
2. SK24 (西から)
3. SK25 (西から)
4. SK25 半截 (西から)
5. SK26 半截 (南から)
6. SK27 (南から)
7. SK27 半截 (南から)
8. SK28 (西から)
- P L 12 1. SK28 半截 (西から)
2. SK29 (東から)
3. 上坑・SD01 出土遺物
- P L 13 1. SD01 (南から)
2. SD01 ベルト設定状況 (南から)
3. SD01 上層 A セクション (南東から)
4. SD01 上層 B セクション (南から)
5. SD01 上層 C セクション (南から)
- P L 14 1. 道構外出土遺物

第1章 調査概要

第1節 調査に至る経緯

平成30年7月中旬に長野原町役場建設課より林地区内に町営団地を建設する計画が示され、埋蔵文化財の取り扱いについて、長野原町教育委員会教育課文化財保護対策室に照会があった。対象地は周知の包蔵地「林中原I遺跡（No.45）」の範囲内に含まれていることから確認調査の必要がある旨を説明し、調査実施で合意を得た。文化財保護法第94条第1項の規定により、同年11月13日付けで関係書類（「発掘届」・「開発に伴う文化財調査願書」）が提出された。同年12月3日～12月6日にわたって教育委員会文化財担当の立会いのもと、対象地内に7本の試掘坑（トレンチ）を設定し、遺構の有無および土層の堆積状況の事前調査を行った。その結果、対象地北側に北北西から南南東に軸をもつ谷地形が存在し、対象地の南側約3分の1の範囲で表土下40～50cmで縄文後期の土坑や包含層が存在することが判明したので、造成前に発掘調査（記録保存）する必要があると判断し、その旨を長野原町町長（建設課）に伝えた。協議の結果、工事計画の変更が困難であるため、次年度に造成工事に先立って発掘調査を実施することとなった。次年度の調査体制や調査費用の積算、委託契約締結などを経て、調査体制は長野原町教育委員会直営ではあるが民間発掘会社の調査員支援というかたちを採り、平成31年4月17日から本調査を実施する運びとなった。

第2節 調査の方法と経過

（1）発掘調査

a. 表土除去

表土除去は重機（バックフォー）を使用して行った。確認調査で調査区北側は表土から40cm、南側では50cm程度で遺物が出土することが判明していたので、そのことを念頭に表土から遺構確認面まで少しずつ掘り下げていった。遺物の出土が確認されるまでを重機でそれ以下は人力で除去した。重機のバケットの爪に鉄板を装着して遺構を傷つけないように配慮した。

b. 遺構確認

遺構確認は上述の表土除去後に人力で行った。土坑等は確認面での覆土の識別に努め、平面形を確定していく。確認面が黒色土中ということもあり作業は困難な側面もあった。

c. 遺構発掘及び遺物の取り上げ

遺構の発掘作業は、遺構の平面形を確定した上で土層観察用のベルトを設定し、遺構内の覆土の除去に着手した。住居跡の場合は長軸方向とその中心から長軸に対して直交方向に十字にベルトを設定し、土坑の場合は長軸に沿って半截して土層の観察を行った。

遺物の取り上げに関しては、単独と思われる破片は上層・下層・床面直上ごとに、個体もしくは遺物の集中している箇所は出土位置図（ドット図）を作成の上、取り上げ作業を行った。遺物出土位置図は1/10のスケールで作成し、標高値の記録を一点ずつ行った。

d. 実測図の作成及び遺構の写真撮影

実測図は土層堆積状況図、遺物出土位置図及び完掘状況遺構平面図を作成した。土層堆積状況図は遺構が小規模だったので遺物出土位置図と同様に1/10のスケールで作成した。完掘状況遺構平面図は光波測距儀を用いて行った。完掘遺構の変化点を三次元記録し、その場でパソコン・コンピューターにより現地での詳細な観察の上で結線して作成した。また、土層堆積状況図及び遺物出土状況（位置）図のポイントの位置も完掘状況遺構平面図作成時に記録した。測定したデータは公共座標値に変換後、加工・編集を行いCD-R等に保管した。

遺構の記録写真は土層断面、遺物出土状況、完掘状況の順で行った。カメラは一眼レフを用い、モノクロとカラースライドの2種類のフィルムを使用した。フィルムサイズはいずれも35mmである。またデジタルカメラも併用して撮影した。調査終了時にはドローンを用いて空中撮影を実施した。

（2）調査経過

a. 発掘調査

発掘調査は平成31年4月17日から令和元年6月11日にわたって実施された。

4月17日、表土掘削開始。

4月19日、表土掘削2分の1終了。

4月23日、表土掘削終了。住居1軒・溝1条のほか土坑多数検出。調査の本格実施は調査員支援委託契約後の5月14日からとなった。

5月14日、道具準備。テント組み立て・トイレ設置。

5月15日、調査区壁切り。基本土層B確認。調査区東側からジョレンかきによる遺構精査。住居跡掘り下げ。

5月16日、遺構精査。SK09・23・27を検出。基本土層Cを確認。

5月17日、遺構精査。SK13～18・24・28を検出。住居跡遺物出土状況図・写真・遺物上げ。

5月20・21日、雨天のため現場作業中止。

5月22日、遺構精査。SK01～12を検出。住居跡にサブトレ設定・掘り下げ開始。

5月23日、遺構精査。SK21・22・25を検出。住居跡サブトレ掘り下げ。

5月24日、遺構精査。配石遺構？・SD01を検出。土坑半截開始。住居跡サブトレ掘り下げ。

5月27日、SK01・02・04～08・10半截・セクション図・写真。SK10完掘・写真。SD01ベルトを残し掘り下げ。

住居跡サブトレ掘り下げ。

5月28日、SK11半截・写真・完掘・写真。住居跡サブトレ掘り下げ。

5月29日、SK05完掘・写真。配石遺構？は遺構にならず。住居跡サブトレ掘り下げ。

5月30日、SK03完掘・写真。SK13～15半截・写真。住居跡サブトレ遺物出土状況図・写真・遺物上げ。

5月31日、SK08・15完掘・写真。SK16・17半截・写真。SK17完掘・写真。住居跡覆土掘り下げ。基本土層B深掘り。

6月3日、SK04・13・14・16完掘・写真。SK29を検出。基本土層A・Dを確認。住居跡覆土掘り下げ。

6月4日、SK02・09・12・18完掘・写真。SK19・23半截・写真。住居跡覆土掘り下げ。

6月5日、調査区北側の礫範囲を重機による面下げ。遺構の検出なし。住居跡は住居にならず。

6月6日、SK19・23完掘・写真。SK20～27半截・写真・完掘・写真。SK28半截・写真。SD01セクション図・写真。

6月7日、雨天のため作業中止。

6月10日、全体清掃。SK28・SD01完掘・写真。

6月11日、全体清掃。ドローンによる空中撮影・調査区全景撮影。図面の補足をして調査終了。撤収。

b. 整理調査・報告書作成

整理調査は令和元年6月12日～令和2年3月30日にわたって実施された。発掘調査によって得られた遺物はテンバコで8箱、現場で作成した図面類は52枚であった。整理調査は担当の他に作業員4名という体制であった。作業は複数遺跡の整理と併行して行われた。

遺物洗浄は令和元年6月12日～同年6月21日まで、注記作業は同年6月22日～7月29日までの間実施した。

遺物の接合作業は最小限のものを注記作業と、Qテックスによる復元作業は実測作業と併行して実施した。

遺物の実測・トレースは同年8月1日～同年12月27日までの調査や事業の合間に実施した。併せて写真撮影、遺物実測図版のデジタル編集を実施した。

遺構図版・写真図版のデジタル編集を令和2年1月10日～同年2月28日、併せて執筆作業は同年1月下旬～同年3月上旬にかけてを行い、併せて保管用に資料・遺物の整理をして3月30日に全ての作業を完結した。

剥片石器の実測・トレース業務は令和元年11月6日～12月25日株式会社歴史の杜に委託した。

第2章 遺跡の立地と環境

第1節 遺跡の位置

林中原Ⅰ遺跡が所在する長野原町は群馬県北西部にある吾妻郡域の南西隅に位置し、東は吾妻郡東吾妻町（旧吾妻町）・高崎市倉渕町（旧倉渕村）、北は吾妻郡草津町・同郡中之条町（旧六合村）、西は吾妻郡嬬恋村と接し、南は浅間高原を経て長野県北佐久郡軽井沢町と県境をなす。本町は高間・白根の両山系と大洞山系とに挟まれた吾妻川流域地帯の北部と、高原地帯の南部とに大別され、高原地帯を除きほとんどが河川・溪沢に向かう山岳傾斜地帯である。

町の北西には草津白根山（標高2,170m）、南西には浅間山（標高2,568m）が位置する。町域も北部は高間山（標高1,341.7m）や王城山（標高1,123.2m）、吾妻川より南に丸岩（標高1,124m）や昔峰（標高1,473.5m）など、南部は南東から南にかけて浅間隠山（標高1,756.7m）、鷹巣山（標高1,431.4m）、鼻曲山（標高1,655m）など、周囲を1,000m～1,800m級の険しい山々で囲まれている。

長野原町の河川は長野県境の鳥居峠付近（標高1,362m）を水源とする吾妻川が東流し、それに万座川や熊川・白砂川など主に两岸の山地から発する諸支流が注ぎ、渋川市街地付近で利根川右岸に合流する。町域は吾妻川の中流にあたりが、かつて酸性を帯びた水質をもつ支流の流入により、中流より下流にかけて魚類の生息に適さない状態であった。しかし石灰投による中和処理が開始されて以来、水質の改善が行われている。

吾妻川两岸は大字長野原付近でやや幅が広く、河岸段丘が発達する（第1図）。この段丘面は最上位・上位・中位・下位の4段階で形成されている。これら段丘面とその上位の丘陵上に縄文時代～平安時代にかけての遺跡が多く見つかっており、現在でも住宅地や田畠として利用されている。これらの段丘は約21,000年前に浅間山から噴出した応桑泥流堆積物が侵食されて形成されており、その上を覆っている関東ローム層中には約11,000年前に噴出した浅間・草津黄色軽石層（As-YPk）が堆積しているのが認められる。現在の吾妻川からの比高差は最上位段丘面で約80～90m、上位段丘で約60～65m、中位段丘で30m前後、下位段丘で約10～15mを測る。大字川原湯から東では川幅が狭まり峡谷をなし、吾妻渓谷を形成している。

長野原町が含まれる浅間山周辺地域は、気候的には太平洋側の気候区に入るが、高地であることから寒冷な中央高地型の気候がみられる。しかし吾妻川沿いの標高600mの谷底から、最高点の浅間隠山の1,756mまでと起伏に富んでおり、地理的条件も変化が大きいため、地区ごとに気候・気象に変化が見られる。降水量も地形により変化するが、年間降水量は関東平野各地域とほぼ等しい。降水量の年変化は日本海側と異なり冬季に少なく夏季に多い。

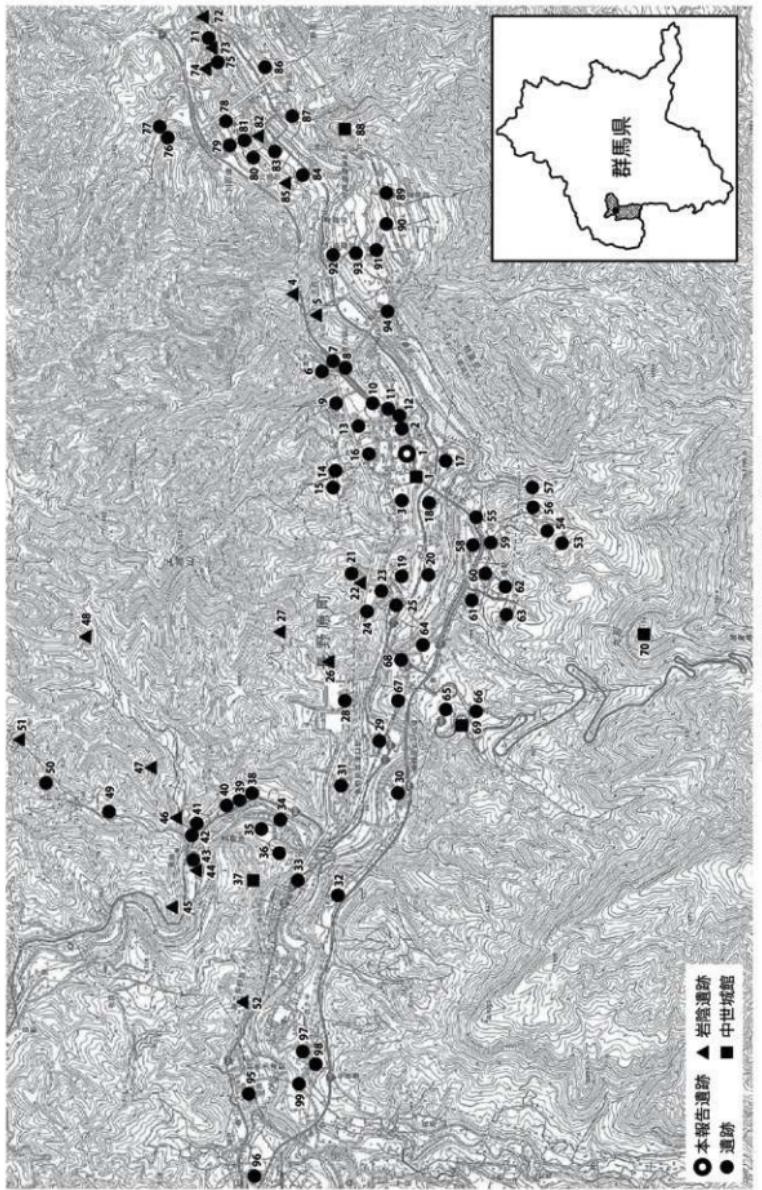
今回報告する林中原Ⅰ遺跡は町域北部の吾妻川流域帶にあり、吾妻川左岸の上位段丘上に立地している。調査地点の標高は627m位である。

第2節 周辺の遺跡

長野原町における遺跡の調査は、昭和29年に行われた勘場木遺跡の調査を始めとして、昭和38・47・48年には群馬県による分布調査が行われ、昭和53年には石烟Ⅰ岩陰遺跡が発掘調査された。本町における遺跡分布状況は昭和48年に群馬県教育委員会刊行の『群馬県遺跡図鑑』に依っていたが詳細な遺跡の分布の把握は不十分で

第1図 運動場辺の河岸段丘面分布図 (1/35,000)





第2図 遺跡の位置と周辺の道路 (1/35,000)

第1表 周辺の遺跡

No.	遺跡名	町名	種別	時代	概要	図考
1	林中原Ⅰ遺跡	45	集落跡	平安・平成	本道跡、和37年度(群大)、平成12～25・30・31年度(町)、平成19～21・22・23・24年度調査(事)。後期住居跡、中期住居跡、後期土坑、中期住居跡、中近世「林中原」、第六代柱建物跡。	文獻1, 2, 12, 14, 17～22, 29, 31, 39, 59, 80, 95, 100, 104～105, 189, 190, 197, 222, 223, 224, 田中原1遺跡
2	林中原Ⅱ遺跡	46	集落跡	平安・平成	和35年度(群大)、平成15～19・21～24・29年度(町)。後期住居跡、中期住居跡、中近世「林中原」、第六代柱建物跡、区画溝、直立柱建物跡。	文獻2, 14, 16, 18, 22, 23, 29, 31, 36, 42, 97, 147, 160, 184～190, 196, 215, 231, 田中原2遺跡
3	林宮前遺跡	48	集落跡	平安・古墳・平安	和成14～16・18～20・24年度調査(事)。國文中期前半住居跡、中期住居跡、中近世柱建物跡。	文獻1, 2, 14～16, 18～20, 24, 28, 34, 36, 44, 46「烈遺跡地図」、No.3127田宮前遺跡(神社前遺跡)
4	久森沢I平野跡	53	その他	不明	羽庭遺跡、岩陰3ヵ所にわたる。	文獻2
5	久森沢II谷筋跡	54	その他	不明	羽庭遺跡。	文獻2
6	立馬I遺跡	37	集落跡	國文・奈生・平安	和成13・14・17～24年度調査(事)。國文早期前半住居跡、包含層遺物多数、和成後半跡、舟形・中期住居跡、費移軸、平安住居跡のはか、國文～平安の船穴多數。	文獻1, 2, 75, 83, 86, 97, 116, 182, 183, 186
7	立馬Ⅱ遺跡	213	集落跡	國文・奈生・平安	平成14年度調査(事)。國文中期初頭～後半住居跡11軒、國文早期包含層遺物、國文～平安船穴多數。	文獻94, 113, 183, 211
8	立馬Ⅲ遺跡	215	集落跡	國文・平安	平成19年度調査(事)。國文早期からとする集落跡、國文文化跡5軒、磐石6箇置2基ほか集石、土坑跡など、平安住居跡、船穴多數、中近世の土坑、圓窓。	文獻83, 86, 128, 188, 213
9	花畠遺跡	205	集落跡	國文・平安	平成10年～12年度調査(事)。平安住居跡の他、南・西穴多數検出。	文獻1, 75, 83, 88, 107, 179～181
10	東原I遺跡	38	散布地	國文・平安・近世	和成17・18・24・26・26年度調査(事)。國文中期後半住居跡、土坑、平安住居跡。	文獻2, 17, 28, 32, 135, 189
11	東原Ⅱ遺跡	39	散布地	國文	平成20・30年年度調査(事)。國文後期前半層、黒曜石片等。	文獻2, 135, 189, 224
12	東原Ⅲ遺跡	40	散布地	平安・近世	平成15・18年度調査(事)、平成20・21年度調査(事)。國文早期～後半の包含層、近世住居跡、土坑、ビット検出。	文獻2, 14, 18, 135, 184, 189, 190
13	上原I遺跡	41	集落跡	國文・奈生・平安	和成18・23・24・25・26・26年度調査(事)。國文早期未期から後半土坑、中期後半住居跡、土坑、穴などを検出。	文獻2, 18, 26, 28, 31, 59, 66, 83, 107, 146, 178, 191
14	上原Ⅱ遺跡	42	散布地	平安	平成18・23年度調査(事)、平成26年度調査(事)。國文中期前半住居跡、燒土遺跡、土坑、平安闕穴。	文獻2, 18, 31, 83, 185
15	上原Ⅲ遺跡	43	集落跡	國文・奈生・平安	平成18～20年年度調査(事)、和成25～27年度調査(事)。國文中期後半住居跡、燒土遺跡、土坑、平安闕穴。	文獻2, 18, 31, 146, 150, 192, 194
16	上原IV遺跡	44	散布地	國文・近世	平成14・18・20・24年度調査(事)。平成15・21～24年度調査(事)。國文中期後半土坑跡、後期敷石住居跡、配石遺跡、飛鳥～奈生住居跡。古後期後半住居跡、平安住居跡、鍋穴など。	文獻2, 12, 18, 20, 28, 31, 83, 95, 121, 139, 183, 184, 190, 192, 193
17	下田遺跡	47	集落跡	國文・平安・中世	和成6・7・9・25・26・28～31年度調査(事)。飛鳥時代の擬柱建物跡、中世の土器の埋蔵。	文獻2, 66, 69, 83, 88, 107, 152, 175, 176, 178, 193, 195～197, 222～224「日本書紀地図」No.3126下田(「下田」)遺跡
18	下原遺跡	204	集落跡	國文・奈生・古墳	平成12・13・15・16・19年度調査(事)。飛鳥時代の石柄鍬付住居跡、古墳後期住居跡、平安住居跡、中世～近世の礎跡など。	文獻2, 66, 78, 83, 84, 98, 107, 108, 117, 161, 181, 182, 184, 185, 196, 197, 223
19	中橋I遺跡	49	散布地	國文・平安・中世	和成23・28・29・29年度調査(事)、平成11・29年度調査(事)。國文早期から後半の包含層、平安住居跡、中世までの礎跡など。	文獻2, 18, 26, 31, 34, 109, 162, 180, 195, 197, 田中橋遺跡
20	中橋II遺跡	203	その他	國文・平安・中世	和成11～13・20～23年度調査(事)。平安集落跡、大明泥流で埋没した焼跡、および永久丸と考えられる埋没跡。	文獻2, 52, 58, 61, 62, 65, 66, 78, 83, 84, 108, 180～182, 184, 193, 195, 222～224
21	二反沢遺跡	52	社寺	中世・近世	平成12年度調査(事)。中世の石碑を作ら造成跡(旧大乗院堂跡)、治山間遺物跡、近世の樹籬。	文獻2, 114, 181, 旧大乗院堂跡
22	瀬内駒台Ⅱ遺跡	55	その他	不明	羽庭遺跡、巣鴨駒台の堂子と石仏群。	文獻2
23	榎木I遺跡	56	散布地	國文・平安	平成10・21・24年度調査(事)。平安住居跡、土坑、集石。江戸隠石文獻2, 139, 179, 190 遺跡群など。	文獻2
24	榎木Ⅱ遺跡	51	集落跡	國文・平安・中世	平成12年度調査(事)、平成12・13・16～17年度調査(事)。國文早期前半(國文～文獻2)～中期後半の擬柱建物跡、平安住居跡、中世の「三家」の墨字裏器、切子「秆」をもつ石製の舞座、中世の擬柱建物跡。	文獻2, 10, 83, 122, 129, 181, 182, 185, 186, 206, 208, 211
25	榎木Ⅲ遺跡	202	散布地	國文・奈生・平安	平成10年度調査(事)。國文～後期、奈生中期の包含層。	文獻107, 179
26	御嶽山岩陰	57	その他	不明	羽庭遺跡。	文獻2
27	峰沢Ⅱ遺跡	56	その他	國文	羽庭遺跡、打製石斧出土。	文獻2
28	辛神遺跡	62	集落跡	國文・平安・近世	平成21年度調査(事)。平成6・7・11～18・23・26～28～30年度調査(事)。國文中期住居跡、土坑、隠し穴。古代の重量性のある焼跡。	文獻2, 22, 83, 121, 177, 183, 185, 186
29	尾坂遺跡	201	集落跡	國文・近世	平成23・26年度調査(事)。平成6・7・11～18・23・26～28～30年度調査(事)。大明泥流で埋没した民家と麻痺、渾などを検出。畠下から昭和中期後半の擬柱建物跡、後期土坑。奈生前期末再葬墓・土坑。平安住居跡、中世擬柱建物跡など。	文獻29, 26, 83, 107, 148, 156, 168, 175, 176, 180, 187～196, 212, 216, 223, 224
30	久々戸遺跡	200	集落跡	國文・奈生・平安	和成19年度調査(事)、平成6～12・14・15・27・28年度調査(事)。國文時代の中期末期の納戸石臼、奈生時代中期後半の土坑および土塗。大明泥流で埋没した民家と麻痺、渾などを検出。畠下から昭和中期後半の擬柱建物跡、後期土坑。奈生前期末再葬墓・土坑。平安住居跡、中世擬柱建物跡など。	文獻19, 49, 52, 108, 109, 150, 167, 178～181, 183, 184, 194, 195, 202, 222, 230, 246
31	長野原一本松遺跡	63	集落跡	國文・奈生・吉野	和成22年度調査(事)。平成6～20年度調査(事)。國文中期後半～後期の古居跡を中心とする拠点的調査。平安住居跡、中世擬柱建物跡など多数検出。	文獻2, 12, 23, 40, 60, 74, 75, 83, 87, 88, 94, 95, 100, 101, 20, 123, 127, 130, 140, 142, 175～189, 198, 211, 旧一本松跡
32	向原遺跡	75	集落	國文・奈生・平安	平成5・19年度調査(町)。	文獻6, 19, 75
33	町遺跡	219	集落跡	近世	平成23～25・30年度調査(事)。	文獻2, 37, 35, 145, 191, 192, 224
34	船木I遺跡	72	集落跡	平安・近世・近代	平成16・22・24・25(町)。近世鍛石建物、大明泥濘、焼、ヤッカラ。復旧構造。	文獻2, 16, 23, 28, 29, 32, 38, 65, 185, 191, 192
35	船木Ⅱ遺跡	73	散布地	國文・平安	黑曜石・磁器採集。平成26年度調査(町)。	文獻2, 32
36	船木Ⅲ遺跡	74	散布地	國文	石碑・石獅採集。	文獻2
37	比良原城跡	85	城郭跡	中世・近世	平成23年度調査(事)。大明泥流下の焼跡。	文獻2, 2, 28, 42, 43, 45, 48, 67, 143, 217
38	東貝瀬I遺跡	64	散布地	國文		文獻2
39	東貝瀬II遺跡	65	散布地	國文		文獻2
40	東貝瀬III遺跡	66	散布地	國文	平成24・25年度調査(町)。チャート採取。近世天保頃3曲。	文獻2, 28, 29, 32, 38, 65, 191
41	日川I遺跡	67	散布地	國文・平安	石井採集。	文獻2
42	日川II遺跡	68	散布地	國文		文獻2
43	日川III遺跡	69	散布地	國文・平安		文獻2
44	日川引削郡	82	その他	不明	羽庭2ヵ所にわたる。	文獻2
45	油谷引削郡	81	その他	國文・平安	羽庭4ヵ所にわたる。	文獻2
46	駿家引削郡	80	その他	國文・平安	平成26～31年度調査(国学院大學)。羽庭6ヵ所にわたる。	文獻2, 53, 169～174, 193

No.	道 路 名	町名	種 别	時 代	概 内 容	備 考
47	ガモ平道	79	その他	小明		文献2
48	駒谷平道	78	その他	小明		文献2
49	火打花 II 道跡	70	散布地	闕文		文献2
50	火打花 II 道跡	71	散布地	石井出土。		文献2
51	仙下川道	26	その他	小明		文献2
52	道西平田跡群	83	その他	小明	別記2 2カ所にわたる。	文献2
53	上野 I 道跡	21	集落跡	闕文・平安	平成 29・30 年度調査(町)。平安時代の住居跡、廬など。	文献2, 36, 40, 83, 197.
54	上野 II 道跡	22	集落跡	闕文・平安	平成 29・30 年度調査(町)。闇文中明の住居跡、平安時代の住居跡、廬など。	文献2, 36, 40, 197
55	横壁勝浜 I 道跡	23	集落跡	闕文・弥生・平安	平成 6・7 年度調査(事)。闇文土坑敷数。楓先形尖頭器 1 点表採。平安住居跡 中世・近世	文献1, 2, 83, 88, 107, 175, 176. 187.「横壁勝浜」No.3318.田博治道跡(「東」道跡)
56	横壁勝浜 II 道跡	223	その他	平安	平成 29・30 年度調査(町)。平安時代の廬穴。	文献36, 39, 40
57	横壁勝浜川道跡	224	その他	平安	平成 29・30 年度調査(町)。平安時代の廬穴跡、廬穴、近世の石垣など。	文献36, 39, 40
58	横壁中村道跡	24	集落跡	闕文・弥生・平安	平成 8～18・20～30 年度調査(事)。闇文中期後半～後期を中心とした廬穴遺構。環状土坑表採。平安時代終盤から鎌倉時代にかけて 250 軒以上を極めた中世盛岡住居跡、廬穴跡等。尋など多様な出	文献1, 2, 66, 83, 87～89, 91, 93, 95, 97, 99, 101, 108, 110, 112, 115, 119, 124, 125, 131～134, 137, 141, 144, 177～187, 211, 224.「上野」道跡
59	山根 I 道跡	26	散布地	闕文・平安	平成 28・29 年度調査(町)。製陶石斧、石器、石柱などの石類。	文献1, 2, 33, 36, 194.「乳」道跡 地図 No.3118
60	山根 II 道跡	28	散布地	平安・近世	平安時代の散在地。	文献2
61	山根留道跡	29	集落跡	闕文・弥生・平安	平成 16・17・20～21 年度調査(町)。平成 10・15・18・20 年度調査(事)。廬穴中層半円形住居跡、土坑、中层部の廬など。	文献2, 16, 17, 20, 40, 83, 107, 121, 179, 182, 184, 187
62	山根IV道跡	30	集落跡	闕文・平安	平成 19・20 年度調査(町)。闇文中期半の住居、土坑など。	文献2, 19, 36, 197
63	山根 V 道跡	225	散布地	闕文	平成 30 年度調査(町)。水堀遺構、闇文時代中期の土器。	文献40
64	西久保 I 道跡	31	集落跡	闕文・弥生・平安	平成 6・10・12～29 年度調査(事)。闇文・弥生末期の敷石住居跡、水堀遺構など。中世・近世	文献 2, 83, 88, 107, 165, 175, 178, 181, 196, 197, 223
65	西久保 II 道跡	32	その他	平安	平成 29 年度調査(町)。平安時代の廬穴。	文献2, 34
66	西久保 III 道跡	33	集落跡	不明		文献2
67	西久保 IV 道跡	216	その他	闕文・平安・近世	平成 17～26 年度調査(町)。平成 12・21・23・30・31 年度調査(事)。闇文後期の廬穴跡、土器部、廬穴など。後期は、平安時代初期跡、光明院後度の廬跡。闇文の廬跡、道路跡、廬穴跡。	文献17, 32, 88, 139, 181, 190, 192
68	西久保 V 道跡	222	集落跡	闕文・弥生・中世	平成 27 年度調査(町)。平成 28～29 年度調査(事)。天明配下の水田跡、闇文33, 88, 165,195～197,222,223 闇文中期後半～後期の廬跡の密集部。	文献33, 88, 165,195～197,222,223
69	柳沢城跡	35	城跡跡	石器・闕文・中世	平安 4～5 年度調査(町)。中世の廬跡、廬穴、土器、石器、鐵輪、石造構築、鐵製品、廬穴などを検出。	文献1, 2, 5, 42, 43, 45, 48, 52, 57, 67
70	丸宮城跡	34	城跡跡	中世	土器や廬跡が検出。	文献1, 2, 42, 43, 45, 46, 48, 57, 67
71	石垣道跡	210	散布地	闕文・弥生・近世	平安 7～9・10～20・29～31 年度調査(事)。天明配下の廬跡。光明院後度の廬跡。後半後度の廬跡、廬穴など。	文献2, 59, 66, 88, 107, 176, 178, 179, 196, 222
72	石垣 I 岩跡	9	墓	闕文・中世・近世	和田と 53 年度調査(組)。平成 29～31 年度調査(事)。闇文草創期～後期の土器部。廬跡、人骨など。天明配下で埋立した廬跡、廬など。	文献2, 46, 49, 53, 63, 83, 179, 196, 223
73	石垣 II 岩跡	10	その他	小明	廬跡。	文献2
74	二社平道跡	11	その他	小明	廬跡。	文献2
75	二社平道跡	209	散布地	闕文・弥生・平安	平成 8・10・12～28・29 年度調査(事)。弥生後期土器類。天明配下の廬跡。	文献28, 107, 177, 179, 195, 196, 222, 223
76	幡丘 I 道跡	1	散布地	闕文・平安	闇文後期散布地。	文献2
77	幡丘 II 道跡	2	散布地	闕文	闇文中期散布地。	文献2
78	三平 I 道跡	3	集落跡	闕文・弥生・平安・近世	平成 20～26 年度調査(町)。平成 10・16・17・24・25・30 年度調査(事)。闇文時代中期～後期の廬跡、土器片、廬跡など。近世は廬跡群跡。引手貝をはじめとして、各時代とも長財貝殻と共性が認められる。	文献2, 20, 27, 32, 83, 88, 100, 107, 118, 179, 185, 186, 191, 192, 224, 191, 192, 224
79	三平 II 道跡	4	集落跡	闕文・平安	平成 16 年度調査(事)。闇文草創期～前期の土器、石器多量。擬立柱建物跡 7 縦本を含む中世後期。	文献2, 83, 86, 100, 118, 185
80	上ノ平 I 道跡	5	集落跡	闕文・平安・中世	昭和 48・49・50 年度調査(事)。闇文中期後半～後期初期の廬跡、廬穴など。平安住居跡、廬穴、廬跡など。近世は立柱建物跡などを検出。奈良十二段の「西園水室」が出土。白鳳永永の出土は本例を含め地圖に示す例ある。	文献2, 82, 83, 88, 126, 149, 153, 187, 188, 195, 209, 222
81	上ノ平 II 道跡	6	散布地	闕文・平安	闇文・平安時代の廬跡。	文献2
82	三ヶ塚Ⅱ塚	12	その他	近世	平成 28 年度(事)。廬跡。	江戸時代中以前の墓地跡。堂平・石仏群は文献2, 195, 222
83	東宮道跡	208	集落跡	闕文・近世	平成 12 年度調査(町)。平成 7～9・19～21・26～31 年度調査(事)。闇文中期～後期の大規模集落、天明配下の廬跡、建物跡、廬跡など。	文献10, 65, 66, 83, 89～93, 107, 136, 138, 153, 153, 176～179, 187～189, 193～197, 214, 222～227, 232, 234, 236, 237, 239, 243, 245
84	西宮道跡	7	集落跡	平安・近世	平成 20・26～31 年度調査(事)。天明配下の廬跡と付属廬跡。廬跡理没塙 5 本以上、復旧 10 数本。ヤックラ、小屋など。	文献2, 158, 189, 193～197, 214, 222～224, 227, 227, 234, 236, 243
85	西宮引塚	13	その他	近世	平成 26 年度調査(事)。廬跡を模倣するための台座・陶器類・瓦踏など。	文献2, 154, 193
86	下御原道跡	217	集落跡	闕文・弥生・平安	平成 27～29・31 年度調査(事)。闇文中期の土器。平安時代の住居跡、天明配下の廬跡、廬など。	文献159, 194～196, 222, 223, 229
87	西ノ上道跡	212	その他	闕文・中世・近世	平成 18・27 年度調査(町)。平成 14・27・29・30 年度調査(事)。天明配下の土器。平安時代の廬跡、天明配下の廬跡、廬など。	文献18, 32, 66, 83, 90, 109, 164, 183, 194, 196, 197, 223
88	金花山岩跡	207	城跡跡	中世	平成 12 年度調査(事)。廬跡などを確認。明治期の「川原森真園」に「トリデア」との記載あり。	文献196, 197, 223
89	川原中崩 I 道跡	16	散布地	闕文	平成 19 年度調査(町)。チャート片出土。	文献2, 19, 196. 「中崩 I 道跡」
90	川原中崩 II 道跡	18	散布地	闕文	平成 17 年度調査(町)。	文献2, 17. 「中崩 II 道跡」
91	川原中崩 III 道跡	19	集落跡	闕文・平安・近世	平成 28 年度調査(事)。闇文中期後半住居跡・廬跡・廬跡など。平安の廬跡。	文献2, 157, 195, 196, 222. 「中崩 III 道跡」
92	前原道跡	210	その他	近世	平成 29 年度調査(事)。天明配下の廬。	文献196, 197, 223
93	石川原道跡	17	集落跡	平安・中世	平成 20～25・31 年度調査(事)。闇文中期の大規模集落、後期の配石、水堀遺構など。天明配下の廬跡。	文献2, 158, 189, 194～197, 214, 222～224, 228, 233, 236, 243. 「北入道」(No.20) 上北
94	川原御源沼道跡	206	散布地	闕文・平安・近世	平成 9・15・16・28・30・31 年度調査(事)。闇文晚期の廬跡。平安住居跡3 例。天明配下の廬跡。	文献65, 66, 77, 78, 83, 84, 88, 92, 107, 111, 166, 178, 184, 185, 195, 197, 210, 222
95	小林家屋敷跡	211	城跡跡	近世	平成 14・30 年度調査(町)。天明配下の廬跡、廬跡建物、土器、石灯など。分骨壺など48軒の右門屋敷の一部。	文献2, 11～13, 36, 54, 62, 65, 66, 84, 183, 196

No.	遺跡名	町名	種別	時代	概要	備考
96	坪井遺跡	86	集落跡	縄文・平安	平成3・10・12・13・24・26・29年度調査(町)。縄文初期初頭花崗石劍1式・縄文中期後半の標点的集落跡。平安時代集落。	文献1.2,4,8,10,12,26,28,56,57,60,81,179,181,183
97	長原I遺跡	126	集落跡	平安	平成15年度調査(町)。平安時代の住居跡・土坑。	文献2.14,184
98	長原II遺跡	127	集落跡	縄文・平安	平成2・3・21・28・30年度調査(町)。縄文時代の住居跡・土坑。平安時代の住居跡。	文献2.4,22,33,39,52,190,195,197
99	旧新井村跡	143	村落跡	近世	昭和55年度調査(町)。人明記箇所に埋没した村落・扇形路や用水路などを検出。	文献2.49,51,54,62,66,99

あった。その後、町教育委員会は県教育委員会文化財保護課の指導のもと、昭和62年度から3ヶ年かけて、全町を対象とした遺跡詳細分布調査を実施し、199の遺跡包蔵地を確認した⁽¹⁾。また平成6年度から八ツ場ダム建設事業に関連した工事用進入路や水没地域の工事に対応して(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団が継続して調査を実施しており、新たな包蔵地の発見や遺跡名の変更などの必要性から平成14年3月と平成16年4月に遺跡地図の改訂を実施した。その後も小さな変更を繰り返しているが、令和2年2月現在で225の包蔵地(指定史跡等を含む)が把握されている⁽²⁾。

本遺跡群の位置する吾妻川流域地帯の東部地区はダム関連事業と直結している地域で、先述した(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団(平成24年4月に公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団に名称変更)が常時数カ所の発掘調査を継続して実施してきた地域である。町教育委員会でも本地域でこれまで生活再建事業として水源地域対策特別措置法(以下、水特法)および利根川・荒川水源地域対策基金(以下、基金)関連事業を実施してきたが、ダム本体の完成間近であり、発掘調査は本年度9月末で完了した⁽³⁾。

本遺跡群を含む吾妻流域地帯東部地区には多くの遺跡が分布している(第2図・第1表)。遺跡は基本的に吾妻川とその支流沿いの河岸段丘上に占地しているが近年丘陵上にも遺跡が発見されはじめ、これまで空白だった時期を埋める遺構も検出されている。ここでは調査を実施した遺跡を中心に当該地域の遺跡を概観したい。なお、長野原町の現時点での歴史観となるべく記載する立場から、筆者が実見したり、調査担当者に聞き取った未報告の情報を多分に含んでいる。従って本報告時には多少異なる見解になるかもしれないご注意願いたい。

(1) 旧石器時代

これまでのところ長野原町では旧石器時代の遺跡は確認されていない。吾妻川流域は前述した応桑泥流やAs-YPKが厚く堆積しており、それより下位の発掘調査が困難な状況がある。遺構外の遺物としては柳沢城跡(69)で細石器文化に伴うと考えられる珪質岩製のスクレイバーが1点出土している。吾妻郡内においても旧石器時代遺跡は高山村に所在する新田西沢遺跡⁽⁴⁾でしか確認されていないというのが現状である。

このことは長野県側の浅間山麓でも同様で、厚く堆積した火山噴出物により旧石器時代面の発掘調査は困難である。長野県側の浅間山麓付近で発掘調査されている旧石器時代遺跡は、いずれも千曲川を挟み浅間山麓の対岸側で確認されている。

(2) 縄文時代

縄文時代になると遺跡数も膨大となる。吾妻川及びその支流沿岸の下位段丘面は低調だが主として中・上・最上位河岸段丘および丘陵部に集落が展開する。

①草創期～早期

現在のところ、長野原町で人々の生活が確認されているのは草創期末～早期初頭からである。該期の遺跡として石畑1岩陰(72)がある。昭和53年に群馬県教育委員会により一部調査され、中期を除く草創期～晚期の土器片・獣骨・人骨などが出土している。特に草創期～早期の土器片には表裏縄文・撚糸文・押型文が認められる。

平成26年度から國學院大學により学術調査が実施されている居家以岩陰群（46）でも草創期～晚期の土器片・石器・獸骨・人骨が出土している。平成28～31（令和元）年度の調査では岩陰部の灰層中から遺存状態の良い早期中葉の埋葬人骨が20体確認されており、その数は今後も増えるだろう⁽⁵⁾。また横壁勝沼Ⅰ遺跡（55）では草創期の楕形尖頭器が表探されている。近年、丘陵上での調査機会も増え、榎木Ⅱ遺跡（24）、立馬Ⅰ遺跡（6）、立馬Ⅲ遺跡（8）で早期の集落が検出されている。榎木Ⅱ遺跡では早期前半撫糸文期の住居跡が31軒検出され、遺構外で表裏縄文・押型文・沈線文・条痕文土器片も出土している。該期の住居跡検出数では県はもとより全国的にも有数である。また立馬Ⅰ遺跡では撫糸文期の住居跡の他、沈線文（田戸下層式）期の住居跡も検出され、遺構外では押型文・条痕文をはじめ晚期までの土器片が連続し出土している。立馬Ⅲ遺跡では子母口式や稻荷台式、沈線文土器などの住居跡が検出されている。さらに同時期の遺物は、調査事例の多い東部地区に偏っており、本遺跡のほか、三平Ⅰ遺跡（78）、三平Ⅱ遺跡（79）、花畠遺跡（9）、中棚Ⅰ遺跡（19）、幸神遺跡（28）、横壁中村遺跡（58）、長野原本松遺跡（31）、西部地区では坪井遺跡（96）で確認されているのみである。それまでの岩陰での生活から早期前半撫糸文期になると丘陵上のオープンサイトでの集落に移行していくようである。また石畑Ⅰ岩陰に代表される岩陰遺跡は丘陵部の自然に適り出した岩場を利用して居住・墓域とするものであるため、県内では分布・遺跡数ともに限定される。吾妻川流域はそのほとんどが河川や渓沢に沿う山岳傾斜地帯であることから岩陰遺跡の立地する条件を満たしているといえよう。岩陰遺跡は長野原町域で21遺跡34ヶ所確認されており、その大半がこの東部地区に集中している。この岩陰遺跡の多さは本町の原始古代の大きな特徴の一つである。

②前期

前期の遺跡も少ないが漸増の傾向にある。立地は丘陵上が多いが、河岸段丘へも集落が広がる傾向が見受けられる。前期前半の遺跡は東部地区より西部地区で顕著であったが近年の調査で東部地区的該期の状況が明らかとなってきている。坪井遺跡では前期初頭（花積下層Ⅰ式期）の住居跡と土坑が検出され、土坑内で花積下層Ⅰ式と長野県で主体的な塚田式との共伴が初めて確認された。平成30年度に調査した赤羽根遺跡では、当該期の石器製作工房Ⅰ軒と土坑4基が検出されている⁽⁶⁾。暮坪遺跡では前期前葉（ニッ木式期）の住居跡⁽⁷⁾、長畠Ⅱ遺跡（98）では前期前葉（関山式期）の土坑と前期前葉（黒浜式期）の住居跡土坑が検出されている。東部地区では上原Ⅰ遺跡（13）で前期初頭の住居跡が15軒検出され、花積下層Ⅰ式土器が主体で塚田式土器が共伴するかたちで追認されている。榎木Ⅱ遺跡で前期前葉（黒浜式期）の住居跡が検出されている他、横壁中村遺跡では埋没河道で少量の破片が認められている。前期後半は榎木Ⅱ遺跡、三平Ⅰ遺跡、林中原Ⅰ遺跡（1）で前期後葉（諸磯式期）の住居跡や土坑、川原湯勝沼遺跡（94）で前期末葉の土坑が検出されている以外は遺構外の出土である。

③中期

中期の遺跡は他時期に比して最も多い。中期前半は県内でも極めて限られた検出事例で少ないが、丘陵上あるいは最上位段丘に占地しているようである。後半になると河岸段丘の平場を中心として積極的な居住区域を展開している。中期前半の集落は近年東部地区的丘陵上あるいは最上位段丘に立地する遺跡で発見されはじめている。中期初頭（五領ヶ台式期）の遺跡は榎木Ⅱ遺跡で住居跡3軒、上原Ⅱ遺跡（14）で屋外焼土遺構を伴う竪穴状遺構が3基・土坑21基、上原Ⅳ遺跡（16）で土坑1基が確認されている。中期前葉（阿玉台式期）の遺跡は立馬Ⅱ遺跡（7）で五領ヶ台式期～阿玉台式期の住居跡11軒・土坑100基ほど、林中原Ⅰ遺跡で住居跡が1軒、幸神遺跡で土坑が検出されている。横壁中村遺跡では中期中葉（勝坂式期）の住居跡、西久保Ⅰ遺跡（64）では同時期の土坑が確認されている。中期中葉（焼町類型期）の遺跡は幸神遺跡で焼町土器の深鉢を炉体土器とした住居跡、林中原Ⅱ遺跡（2）と横壁中村遺跡で焼町土器を主体とする住居跡がそれぞれ1軒ずつ確認されている他、上ノ平

I遺跡（80）では同時期の住居跡が12軒検出された。今年度、町営横壁土地改良事業の工事中に中期前半の水場遺構が発見され、山根V遺跡（63）を追加した。全国的にみても古手の水場遺構である。西部地区では観奈遺跡⁽⁸⁾で中期前半の土坑8基、クヌギII遺跡⁽⁹⁾で中期中葉の埋設土器が検出されているのみで、山岸II遺跡⁽¹⁰⁾で少量の破片が認められたぐらいである。中期後半になると列石を伴う抛点集落が吾妻川流域地帯に分布を広げて出現する。長野原一本松遺跡、横壁中村遺跡を筆頭として近年の調査により林中原I遺跡、林中原II遺跡、東宮遺跡（83）、石川原遺跡（93）が新たに加わり、西部地区では坪井遺跡に代表される。遺跡を大規模に調査している前6者に共通するのは中期後半に引き続き、後期前半（～加曾利B式期）まで継続して集落が営まれていることである。また坪井遺跡は前2者に比して規模は小さいが、弧状石列1基、住居跡19軒（拡張住居含む）、土坑49基が検出されている。土器は大きく4系統（①加曾利E式土器<北関東系>、②曾利・唐草文系土器<信州系>、③「郷土」式土器<①と②の融合型式>、④柄倉II式土器<越後系>）が認められ、特に③の「郷土」式土器が該期の主体となる時期であり、環状間山地域に分布し、小文化圈を形成していることが最近分かってきている。この坪井遺跡出土土器の傾向は前6者出土土器、さらに県指定史跡「勘場木石器時代住居跡」⁽¹¹⁾出土土器にも看取される。その他、向原遺跡（32）では中期末～後期初頭の敷石住居跡が検出されており、立地から抛点集落のひとつになる可能性が高い。最近の調査では尾坂遺跡（29）で中期後半の住居跡が6軒検出されており、うち3軒が敷石住居と確認され、敷石住居出現期の可能性がある。尾坂遺跡の対岸に位置する久々戸遺跡（30）でも中期末の遺存状態の良い敷石住居が検出され、町では平成30年度に移築保存を実施した。

④後期

後期の遺跡は規模は縮小するものの吾妻川流域の比較的広い範囲に分布する。上記の中期後半の遺跡の他、西部地区では本町で初めて敷石住居跡を検出したクヌギII遺跡、向原遺跡、滝原III遺跡⁽¹²⁾、古屋敷遺跡⁽¹³⁾、東部地区では上ノ平I遺跡、上原IV遺跡、林中原I遺跡、石川原遺跡に代表される。後期初頭（称名寺式期）～後期中葉（加曾利B式期）までの敷石住居跡、掘立柱建物跡は長野原一本松遺跡、横壁中村遺跡で多く検出されている。長野原一本松遺跡では壁に板材の痕跡を残し、方形周縁を明瞭に残す柄鏡形敷石住居跡が確認されている。また横壁中村遺跡では主軸全長9mにも及ぶ大形の柄鏡形敷石住居跡や配石墓群が検出されている。その他、林中原I遺跡、上原IV遺跡、上ノ平I遺跡でも後期初頭～前葉（称名寺式期～堀之内式期）の敷石住居跡等が検出されている。後期後葉（高井東式期）の住居跡は横壁中村遺跡で3軒、久々戸遺跡で土坑が検出されているのみである。石川原遺跡では後期後半～晚期前半の住居跡、配石遺構、水場遺構が多数検出されている。後期終末（安行1・2式期）に関しては横壁中村遺跡や立馬I遺跡で土器片が出土しているがいずれも遺構外である。

⑤晚期

晚期に関してはこれまで石畑I岩陰で土器片が出土している他、横壁中村遺跡で晚期未葉（千綱式併行）の包含層が確認されているだけであった。遺構の検出は晚期前半は前述の石川原遺跡で確認されていているものの、依然少なく、後半（特に未葉～弥生中期）に関しては最近の調査で増えつつある。立馬I遺跡では晚期未葉の住居跡1軒、横壁中村遺跡では晚期未葉の住居跡2軒、埋甕1基、上原IV遺跡・西ノ上遺跡（87）では土坑1基が検出されている。立馬I遺跡では南信松本盆地に分布する女鳥羽川式土器が出土している。さらに川原湯勝沼遺跡からは該期の土坑が数基検出され、その中の1基は壺棺再葬墓であることが判明している。同一土坑に2個体が埋置されており、ひとつが中沢氏のいう「氷式突垂壺」⁽¹⁴⁾の上半部が逆位に、もう一方は浮線文系の半精製壺が正位の状態で出土している。この壺棺再葬墓は東日本でも最古級として注目されよう。その他、遺構外ではあるが久々戸遺跡で氷式土器の浅鉢、向原遺跡で大洞A'式まで遡ると考えられる土器片も確認されている。

（3）弥生時代

弥生時代の遺跡は分布調査の時点で後期に属する3遺跡のみであったが、縄文時代晩期末葉から弥生中期前半までの資料が増えている。遺跡は丘陵上あるいは最上位段丘に立地する傾向が強く、縄文時代早期や中期前半と共に通しているようである。東部地区では本遺跡のほか長野原一本松遺跡で中期前半までと考えられる土坑1基、横壁中村遺跡では埋葬（再葬墓か）1基が検出され、東海地方に分布する櫻王式土器の甕が出土している。下原遺跡（18）では集石遺構から中期前半を中心とした遺物が認められた。林中原II遺跡では中期前半と考えられる住居跡4軒の他、前期末に遡る土坑墓（再葬墓か）、尾坂遺跡でも前期末の再葬墓と思われる土坑や完形土器2個体を出土する土坑、貯藏穴など、上原I遺跡では前期末の短頭甕を納めた土坑、三平I遺跡では前期末～中期前半の土坑が数基検出されている。西部地区では遺物出土量が少なく時期が判然としないものが多いが、坪井遺跡で中期初頭と考えられる住居跡1軒、土坑が5基、向原遺跡では前期に遡るものも含めて中期前半までの土坑が7基検出されている。遺構外では外輪原I遺跡、上ノ平遺跡で中期前半までの資料が比較的まとまっている。中期後半に関しては、立馬I遺跡で住居跡2軒と土器棺墓2基を含む土坑が数基、後期に関しては、石畠遺跡（71）で土坑1基が確認されているのみである。分布調査時に居家以岩陰群、寺久保遺跡、新田原I遺跡で土器片が表採されている他、立馬I遺跡では遺構外で、二社平遺跡（75）周辺で後期～古墳時代前期に比定される土器片が表採されている。

（4）古墳時代

これまで遺構外では他時期の遺物に混入するかたちで5世紀後半の土器片は坪井遺跡、長野原一本松遺跡、二社平遺跡などで確認してきたが、長野原町で古墳時代の集落として把握されている遺跡は皆無であった。平成15年度に最上位段丘面に立地する林宮原遺跡（3）で5世紀末～6世紀初頭の住居跡が1軒検出されたのが初例である。これに続いて平成16年度の調査で川原湯勝沼遺跡で焼土を伴う土坑から同時期の土師器と遺構外で剣形模造品、下原遺跡で同時期の住居跡1軒の他、土師器（片）がまとまって出土している。最近の調査では上原IV遺跡でも5世紀後半～6世紀初頭の住居跡が2軒検出されている。これらは吾妻川に直面した最上位・中位段丘面の自然流路あるいはその周辺で出土していることから水に関連した祭祀遺構の可能性が高い。これら4遺跡で検出された遺構は時期的にほぼ合致しており注目される。さらに上原I遺跡で前期と考えられる住居跡からS字状口縁台付甕や壺形土器が出土し、中期の高窓を包含する土坑も検出され、これまで空白であった時期の遺構検出事例が徐々にではあるが大規模調査の成果として増えてきている。

また昭和13年に刊行された『上毛古墳総覧』によれば、大津地区的「鉄塚」、与喜屋地区的「五輪塚」が前方後円墳と報告されている。また昭和11年刊行の『群馬県吾妻郡誌』では林地区的「御塚」が古墳とされ、合計3基が古墳とされている。「五輪塚」は現況で畑としてならされているが、「鉄塚」と「御塚」は円形の形状を保ち、現在は墓地として利用されている。その他、「てづか（てづか）」や林地区中棚にある「砂塚」に関しては『長野原町誌』で「宮内地区的「てづか」は鉄塚の諺音ではあるまいか。鉄塚の地名には城跡や屋敷跡などに多いといわれ、砂塚との対照がおもしろい」とあり、古墳という認識ではないが同じ林地区に少なくとも「塚」と付くものが3基あるということが注目される。いずれも古墳とするには根拠が薄く、今後の調査に期待したい。

（5）奈良・平安時代

奈良時代に該当する遺跡は分布調査時の羽根尾II遺跡のみで増えていない。これに対して平安時代の遺跡の分布は町内全域に及んでおり、縄文時代とともに本町で原始古代の中心をなす時期である。調査した遺跡を挙げれば、西部地区では、坪井遺跡、向原遺跡、長畝I遺跡（97）、長畝II遺跡、山岸II遺跡、東部地区では東宮遺跡、

上ノ平Ⅰ遺跡、三平Ⅰ遺跡、下湯原遺跡（86）、西ノ上遺跡、石川原遺跡、川原湯勝沼遺跡、立馬Ⅰ遺跡、東原Ⅰ遺跡（10）、榆木Ⅰ遺跡（23）、榆木Ⅱ遺跡、花畠遺跡、下原遺跡、中棚Ⅰ遺跡、上原Ⅰ遺跡、上原Ⅲ遺跡（15）、上原Ⅳ遺跡、林宮原遺跡、横壁勝沼Ⅰ遺跡、横壁勝沼Ⅲ遺跡（57）、山根Ⅲ遺跡（61）、山根Ⅳ遺跡（62）、上野Ⅰ遺跡（53）、上野Ⅱ遺跡（54）、横壁中村遺跡、長野原一本松遺跡、尾坂遺跡などから住居跡や掘立柱建物跡、陥し穴などが検出され、該期集落として把握されている。この中で榆木Ⅱ遺跡では9世紀後半～10世紀前半の住居跡が38軒、竪穴遺構3基が検出され、「長」・「三家」の墨書き土器と刻字「称」をもつ石製防錐車、上ノ平Ⅰ遺跡では住居跡が20軒検出され、県内2例目となる皇朝十二銭「貞觀永寶」が出土しており注目される。この他、上原Ⅲ遺跡では鍛冶工房跡1軒・住居跡11軒・焼土遺構6基・陥穴29基など、中棚Ⅰ遺跡では住居跡4軒が検出され、そのうち全容が判明した2軒は一辺が6mを超える大形住居であった。このうちの1軒からは「赤」の墨書きが大量に出土しておりその性格が注目される。

（6）中世

吾妻流域地帯には中世城館跡が点在している。その立地は当時の道との関連性が強く、分岐点の丘陵上など交通の要衝に多い。西から羽根尾城跡¹⁵⁾、長野原城跡（37）、丸岩城跡（70）、柳沢城跡、金花山砦跡（88）などがあり、その他に林城跡（1）、林の烽火台などといわれている箇所も存在する。これらはいずれも山城である。この中で丸岩城は「丸屋の要害」として『加沢記』にも記され、節理の発達した岩山の山頂に立地している。この丸岩城跡の北西麓に里城としての柳沢城跡が位置し、山城部と丘城部から成る本城を構えている。この柳沢城跡の一部が発掘調査されており、郭跡・堀切・土居・礎石建物・腰曲輪・石組遺構・溝・柵列などが検出されている。遺物のほとんどが礎石建物から出土しておりかつ豊富である。陶器・鉄製品・銅製品・石臼などが出土しており、特に陶器類は常滑系大甕・古瀬戸三耳壺・古瀬戸菊皿・珠洲系陶器壺の他、輸入陶磁器である景德鎮窯梅瓶などが準完形で出土している。また最近の調査で林中原Ⅰ遺跡範囲内に林城跡が確認され、その範囲や構造が明らかになりつつある。金花山砦跡は明治期の絵図『川原湯真図』に「トリデアト」の記載があったことから平成12年度に町教委と事業団で踏査して堀切などを確認した。

近年は河岸段丘面の遺跡でも該期の遺構が検出されはじめており、集落として把握されるようになっている。それらを例挙すると立馬Ⅰ遺跡、林宮原遺跡、榆木Ⅱ遺跡、二反沢遺跡（21）、下原遺跡、横壁中村遺跡、西久保Ⅰ遺跡、長野原一本松遺跡、尾坂遺跡となる。このうち、横壁中村遺跡と下原遺跡では石垣で区画された屋敷跡がそれぞれ1棟、長野原一本松遺跡では掘立柱建物群と竪穴状遺構、榆木Ⅱ遺跡でも掘立柱建物群、二反沢遺跡では区画跡のほか羽口や鉄サイなど鍛冶関連遺構などが検出されており注目される。

（7）近世

長野原町は浅間火山・白根火山の麓に位置し、古くから度重なる火山災害を被っていることが地層からも窺える。浅間火山の主な噴火活動を概観すれば、すでに9万年前には黒斑山は活動をはじめており、2.4～2.1万年前に黒斑山崩壊を伴う噴火活動があった。その時発生した泥流は、応桑泥流・中之条泥流・前橋泥流と確認された地点ごとに異なる名称で呼ばれている。その後は仏岩火山の活動期で浅間板鼻黄色軽石（As-YP）降下をもたらした。1万年前頃から前掛山の活動が始まり、その噴火により繩文時代中期の浅間D軽石（As-D）、4世紀の浅間C軽石（As-C）、天仁元（1108）年の浅間B軽石（As-B）、天明3（1783）年の浅間A軽石（As-A）という4つの大きなテフラがもたらされた。これらは、浅間山の活動史を如実に物語る証であり、群馬県内の考古年代の指標にもなっている。その中でも天明3（1783）年の噴火は軽石降下後に襲った泥流（鎌原火碎流）により吾妻川・利根川流域沿いの町村に甚大な被害をもたらし、有史以来の記録的火山災害として知られている。この泥流

によって埋没した嬬恋村の旧鎌原村が昭和54年から調査され、「延命寺観音堂の石段」、「十日ノ窪」など天明の大噴火における被災遺跡として注目を集めだが⁽¹⁶⁾、翌年に本町でも山間地域若者定住環境整備モデル事業として陸上自衛隊によるグランド造成中に日待供養塔・石臼・農具などが出土し、旧新井村跡（99）の痕跡が確認された。平成14年度には町立中央小学校の屋内体育館・プールの新築に伴って、当時の分限者小林助右衛門屋敷（95）の一部が発見され、石垣・土蔵・礎石建物跡が調査されている。また平成16年度には長野原市街地における下水道工事で建築部材・薬缶・鉄釜・石臼の他、「背面金剛塔」が泥流中から出土しており、旧長野原村が壊滅的状況であった一端を垣間見る発見があった⁽¹⁷⁾。さらに平成20年度に草木原遺跡⁽¹⁸⁾、平成23年度に小滝Ⅱ遺跡⁽¹⁹⁾で天明泥流に埋没した烟跡が検出され、立石村・羽根尾村の被災状況も確認された。

近年、ダム関連工事に伴う発掘調査により、これまで認識されていなかった下位・中位段丘で泥流に埋もれた遺跡が相次いで発見された。それらを例挙すると、町遺跡（33）、長野原城跡、嶋木Ⅰ遺跡（34）、東貝瀬Ⅲ遺跡（40）、下田遺跡（17）、下原遺跡、中棚Ⅱ遺跡（20）、西宮遺跡（84）、東宮遺跡、石川原遺跡、石畑遺跡、西ノ上遺跡、川原湯勝沼遺跡、横望勝沼Ⅰ遺跡、横壁中村遺跡、西久保Ⅳ遺跡（67）、西久保Ⅴ遺跡（68）、尾坂遺跡、久々戸遺跡などがある。これらの遺跡では主として烟跡・ヤックラ・道・石垣・溝・井戸・覆屋構造物などが検出されている。現時点での成果として天明泥流に埋まった烟景観の復原や「ツカ」や平坦面から推定される「単位烟」の構造、さらには泥流とその逆級化構造のメカニズムなどに関して詳細な検討がなされている。また東宮遺跡、西宮遺跡、石川原遺跡、町遺跡、尾坂遺跡、下田遺跡などでは民家跡も検出されている。特に東宮遺跡は泥流に埋没した川原畠村を面的に調査した貴重な発見である。建物跡が14棟のほか烟20区画・道3条・溝6条・石垣10基・集石1基・土坑8基を検出した。通常遺存しない建築部材や漆器など植物遺存体の検出例が多く、当時の川原畠村の景観復原はもとより、近世建築学、民俗学など多角的な分析に寄与する部分が大きいと考えられる。さらに隣接する西宮遺跡では埋没烟とともに南北方向に10数本の復旧溝が検出され、被災後の復旧の痕跡が本町ではじめて確認された。

また推定される泥流到達範囲外でも該期の遺構・遺物は確認されている。林中原Ⅱ遺跡、上原Ⅳ遺跡、二反沢遺跡、榆木Ⅰ遺跡、幸神遺跡、長野原一本松遺跡が該当する。このうち上原Ⅳ遺跡では溝（旧河川路）を検出しているがそこから下駄や曲物の底・農具・石鉢・陶磁器など生活道具が出土している。

第3節 既応の調査

今回の調査は林中原Ⅰ遺跡の第18次調査にあたる。本遺跡は長野原町教育委員会だけで令和2年2月現在で18次にわたる調査が実施されている。その中には試掘確認調査・立会調査により本発掘調査に至らなかつたものも多く含んでいるが、この数字はここ数年で本遺跡内で開発が集中して行われてきたことを如実に物語っている。また町教委に先駆けて群馬大学史学研究室による学術調査や近年では八ッ場ダム工事関連で公益財団法人群馬県理蔵文化財調査事業団でA～D地点の調査が実施されている（第3図・第2表）。

先述したとおり、本遺跡での最初の発掘調査は昭和37年11月23日～26日まで群馬大学史学研究室により実施された⁽³⁸⁾。詳細は不明であるが縄文時代中期の住居跡を1軒調査したという。遺物は同研究室に保管されている。

第1次調査は平成14年度に個人専用住宅に先立って実施された。トレーン調査により遺構・遺物を検出するには至らなかった。対象地は谷地で泥炭層を基盤としていることが確認された。

第2次～第4次調査は平成15年度に個人専用住宅に先立って実施された。第2次調査ではトレーン調査により



第3図 林中原I遺跡調査地点位置図（1/2,500）

遺構・遺物を検出するには至らなかった。第3次調査では北側の町道拡幅のため住宅を移動する計画が出されたため、開発事業主と協議して確認調査を実施することで合意を得ていたが、その後設計変更で盛土対応（現況から1m）することになり現状保存されることになった。第4次調査では、縄文時代後期前葉住居跡1軒、配石遺構2基、石組遺構1基が検出された。住居内覆土には大量の遺物がブロック状で出土し、いわゆる「土器捨て場」の様相を呈していた。配石遺構は確認面からの深さが一般なものと比べており掘立柱建物跡の可能性が高い。また石組遺構としたものも出土炭化材の放射性炭素年代測定が中期後半に帰属することや板石の組み方から判断して炉跡の可能性が高く、調査区全体が中期後半の住居跡であったことが推測された。遺物は住居内廐棄遺物に準完形遺物が多く、当該地域の堀之内2式中段階を把握できる土器群であった。中でも“釣手付き注口土器”は類例に乏しく貴重な発見であった。

第2表 林中原Ⅰ遺跡調査一覧

番号	調査年度	調査機関	原図種類	調査面積 (開発面積)	概要	備考
0	昭和37年度	群馬大学	学術調査	?m ² (-)	縄文中期住居1	文献59
1	平成14年度	長野原町 教育委員会	個人専用住宅 試掘調査	10m ² (288m ²)	遺構なし	文献12,183
2	平成15年度	"	個人専用住宅 確認調査	52m ² (489m ²)	遺構なし	
3	"	"	個人専用住宅 立会調査	-m ² (2684.26m ²)	現状保存	文献14,184
4	"	"	個人専用住宅 本調査	59.8m ² (675.42m ²)	縄文後期敷石住居1・配石遺構2・石組遺構1(住居跡?)	
5	平成16年度	"	個人専用住宅 確認調査	28m ² (734.69m ²)	縄文包含層	文献16,185
6	平成17年度	"	個人専用住宅 確認調査	59m ² (647m ²)	縄文中期包含層	文献17,186
7	"	"	町道林根括幅 本調査	500m ² (749.52m ²)	縄文住居1・土坑11基	文献17,186 未報告 水特法
8	"	"	個人専用住宅 確認調査	15m ² (528m ²)	縄文前期後半包含層	文献17,186
9	平成18年度	"	園芸施設(3地区) 本調査	190m ² (1820m ²)	縄文後期前葉住居2・配石遺構2	文献18,187
10	"	"	園芸施設(4地区) 確認調査	42m ² (789m ²)	縄文包含層	文献18,36,187 未報告 水特法
11	平成25年度	"	土地改良事業 本調査	426m ² (2541m ²)	(縄文)中期土坑1・中期～後期土坑60・ビット70・土坑(貯藏穴)6 (平安)窓・穴5 (中世)掘立柱建物跡7・柱列1・墓1・地下式坑1・ 土坑78・ビット594・溝12・平坦面1・水場遺構1 (近代)焼土遺構2 (時期不明)土坑2・谷地形1	文献29,36,192 水特法
12	平成19年度	"	個人専用住宅 本調査	480m ² (555m ²)	縄文後期前葉住居2・配石遺構10・土坑15(平安 土坑含む)・中期後半包含層1・掘立柱建物跡1	文献19,188 未報告
13	"	"	個人専用住宅 確認調査	78m ² (564.22m ²)	縄文後期初頭～前葉包含層	文献19,188
14	"	"	町道林根括幅 本調査	165m ² (760m ²)	縄文中期後半～未住居2・土坑15	文献19,188 未報告 水特法
15	平成20年度	"	町営住宅 本調査	535m ² (1291m ²)	縄文中期未住居1・後期初頭～前葉住居3・配石遺構22・土坑4	文献20,189 未報告
16	"	"	町道林根括幅 本調査	340m ² (825m ²)	縄文中期末～後期前葉包含層・埋没河道・土坑11	文献20,189 未報告 水特法
17	平成21年度	"	個人専用住宅 確認調査	19m ² (205m ²)	縄文中期末～後期前葉包含層	文献22,190
18	平成30年度 ・令和元年度	"	町営住宅 確認調査・本調査	400m ² (1000m ²)	本報告	文献39,197 水特法
A	平成16年度 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団	町道括幅 本調査	1415m ² (1415m ²)	時期不明土坑8 粗川テフラ		文献107,143
B	平成19年度	"	国道付替・町道敷設 本調査	9874m ² (9874m ²)	(縄文)前期前半住居3・中期前半住居1・土坑8・ 窓・穴13・ビット20 (中世)掘立柱建物61・窓穴状遺構3・土坑 217・堀7・溝17・ビット1434・墓6・石垣5・ ため池2・橋2	
C	平成20年度	"	国道付替 本調査	618m ² (618m ²)	(縄文)土坑7 (中世)土坑3・土取穴1・ビット17・墓1・道1 (近世)礎石建物1・土坑3・土取穴10・溝2・墓3・ 石垣2・焼土6・道1	文献 143,188,189, 190,213,223
D	平成21年度	"	町道敷設 本調査	1954m ² (1982m ²)	(縄文)前葉前葉住居1 (中世)掘立柱建物・溝・土坑	

第5次調査は平成16年度に個人専用住宅建設に先立って実施された。トレンチ調査により遺構は検出されなかったが縄文時代中期後半の土器片が出土している。

第6次～第8次調査は平成17年度に実施された。第6次調査は個人専用住宅建設に先立って実施され、トレンチ調査により縄文時代中期後半の包含層が確認されたが、顯著な遺構は検出されなかった。第7次調査は町道林線拡幅工事（水特法事業）に先立って実施され、縄文時代後期前葉住居跡1軒、中期後半～後期前葉土坑11基が検出された。第8次調査は個人専用住宅建設に先立って実施され、トレンチ調査により縄文時代前期後半の包含層が確認されたが、顯著な遺構は検出されなかった。

第9次～第11次調査は平成18年度に実施された。第9・10次調査は林地区園芸施設整備事業（水特法事業）に先立って実施された。第9次調査では縄文時代後期前葉住居跡2軒、配石遺構24基が検出された。うち1軒からは炉体土器2個体をはじめ、堀之内1式新段階の良好な資料が得られた。第10次調査はトレンチ調査により縄文時代中期後半の包含層が確認されたが、顯著な遺構は検出されなかった。第11次調査は町営林土地改良事業（水特法事業）の事業採択前の埋蔵文化財の取り扱いを決定するための確認調査を実施した。本遺跡全体で農道や水路が計画されている箇所を中心にトレンチ7本を設定し調査した。その結果、遺構は判然としないものの縄文時代中期後半～後期前葉包含層や中世の溝（堀）などが検出された。その後、平成25年度に本調査が実施され、後述する（財）群馬県埋蔵文化財調査事業団によって明らかにされた林城跡の域域の広がりを確認する調査となった。

第12次～第14次調査は平成19年度に実施された。第12次・第13次調査は個人専用住宅建設に先立って実施された。第12次調査では縄文時代後期前葉住居跡2軒（うち1軒は中期後半）、配石遺構（配石墓含む）10基、土坑（理窯2基・陥し穴2基含む）13基、中期後半～後期前葉包含層、平安時代土坑2基（掘立柱建物跡の可能性あり）が検出された。調査面積に比して遺物の出土量が多く、特に住居跡出土土器では注口土器の出土が顯著であった。整理段階ではあるがほぼ完形に復原できるものが3個体は確認されている。また調査区全体で多孔石の出土が目立った。第14次調査は町道林線拡幅工事（水特法事業）に先立って実施され、縄文時代中期後半～末住居跡2軒、土坑15基が検出された。

第15次・第16次調査は平成20年度に実施された。第15次調査は町営住宅建設に先立って実施され、縄文時代中期後半住居跡1軒、後期初頭～後期前葉住居跡3軒、配石遺構22基、土坑4基が検出された。中期後半住居は土器捨て場の様相を呈しており、完形土器および準完形土器が多量に出土した。第16次調査は町道林線拡幅工事（水特法事業）に先立って実施され、縄文時代中期後半～後期前葉包含層、土坑11基のほか埋没河道が検出された。

第17次調査は平成21年度に個人専用住宅建設に先立って実施された。トレンチ調査により遺構は検出されなかったが縄文時代中期～後期前葉包含層が検出された。

この他に第3図におけるA～D地点は（財）群馬県埋蔵文化財調査事業団により発掘調査が実施された箇所である。

A地点は平成16年度に林地区工事用進入路建設工事に先立って実施された。拡幅部分の調査1415m²であったが、近～現代を含む時期不明の土坑8基と縄文土器、陶磁器片等の遺物が発見された。他に浅間山起源の青灰色を中心とする厚さ3cm程度の火山灰（浅間一粒川テフラ）の一次堆積層が確認された。

B地点は平成19年度に国道145号線及び町道新設工事に先立って実施された。縄文時代の遺構は前期前半住居跡3軒、中期前半住居跡1軒、土坑30基弱、陥し穴13基が検出された。また調査区の西側長さ100mは中世城郭「林城」にあたり、堀7条と区画された生活面（郭）7か所（第I郭～第VII郭）を発見した。第III郭では中世から近世の掘立柱建物跡7棟を含むピット・土坑群を検出した。第III郭の西を区画する堀では土橋と木橋が発見され

土橋の南壁には石垣が5段程度積まれていた。さらに第Ⅲ郭と第Ⅴ郭の間には水場遺構のため池2基が発見され、石垣と板材による土留めを伴っていた。調査区東側では一辺60m規模の中世屋敷が発見され、掘立柱建物跡は39棟認定されている。竪穴遺構は3基検出され、うち1基は柱穴を持つ建物で、方形の炉にほぼ完形の内耳鍋が据えられていた。炉の北側床面には2つ折りにされた半円形の紙片(漆紙文書)も発見された。

C地点は平成20年度に国道145号線新設工事に先立って実施された。縄文時代の遺構は前期土坑7基が検出された。中世は林城第Ⅰ・Ⅱ郭を調査した。第Ⅰ郭では整地盛土層が確認され、その下で土坑2基とピット13基が検出された。土坑1基からは馬歛上下と頸の一部が出土した。またピットの配列から掘立柱建物跡が想定された。第Ⅱ郭は近世以降の変更が著しくピット4基の検出に留まった。第Ⅱ郭南側では近世礎石建物跡が、北側では土取穴が6基重複して検出された。うち1基からはほぼ全身骨格の馬骨4頭分が出土している。建物跡下位には江戸時代の土坑墓、建物と重複して永楽錢を伴い炭を多く混入する土坑が検出された。

D地点は平成21年度に町道新設工事及び国道取り付け工事に先立って実施された。縄文時代の遺構は調査区西端で前期後半(諸磯式期)の住居跡1軒、竪穴遺構1基、土坑2基が検出された。中近世は竪穴遺構2基、礎石建物跡2棟、掘立柱建物跡9棟、溝7条、土坑48基、ピット609基が検出され、林城の第Ⅶ郭の範囲が北側に広がっていることが確認された。

第4節 基本層序

本遺跡の基本層序は第5図のA～D地点で確認した。発掘調査での所見と併せると以下のようになる。

第Ⅰ層 暗灰褐色土

いわゆる表土で、上位は畑の耕作土である。締まりは上位が弱く、下位はやや強い。

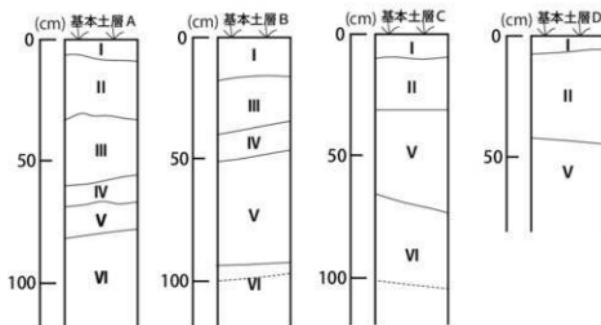
第Ⅱ層 褐灰色土

締まりはやや弱い。

第Ⅲ層 暗褐色土

締まりはやや弱い。

第Ⅳ層 にぶい黄褐色土



第4図 基本土層図 (1/20)

次の第V層とともに調査区北側の谷地部の氾濫ないしは山押し等により形成された層と考えられる。締まりはやや弱い。縄文包含層である。

第V層 明褐色土

縄文包含層である。締まりはやや強い。

第VI層 暗褐色土

軽石粒を含み、締まりはやや強い。

註

1. 文献2。
2. 主に下位・中段丘で発見された天明泥流に埋もれた遺跡を追加・範囲拡張した他、遺跡名の変更を実施した。その改訂版の詳細については「マッピングぐんま 遺跡・文化財」(<http://www2.wagmap.jp/pref/gunma/top/select.asp&npr=dtp=86/pl=3>)で参照願いたい。本書では第2表および本章にできるだけ最新情報を記載した。
3. 発掘調査が平成31（令和元）年度まで、整理調査・報告書作成が令和2年度までの予定である。
4. 〈財〉群馬県埋蔵文化財調査事業団 2004「新田西沢遺跡 新田平林遺跡」
5. 前底部においても2mにもおよぶ厚さの灰層が検出されており、獣骨や押型文土器が出土している。今後は岩陰部の灰層との関係の解明が注目される。また平成30年度、考古学研究室によりリサーチデザインを示した遺跡のパンフレットが作成された。
6. 平成30・31（令和元）年度、太陽光発電所建設に伴い、本調査を実施した。現在報告書を印刷中である。
7. 文献9。
8. 文献35。
9. 文献3。
10. 文献25。
11. 文献42・44・47・52・59など。平成30年度から3カ年計画で整備事業を進めている。
12. 文献7。
13. 文献1・2・20。
14. 中沢道彦 1998「『氷I式』の細分と構造に関する試論」『長野県小諸市氷遺跡発掘調査資料図譜』第三冊 氷道路発掘調査資料 図譜刊行会
15. 文献1・2・42・43・45・48など。
16. 福恋村教育委員会 1981『鎌原遺跡発掘調査概報 浅間山噴火による埋没村落の研究』
1994『埋没村落 鎌原遺跡発掘調査概報（よみがえる延命寺）』
その他文献51・52・58など。
17. 水特法関連の試掘確認調査は別稿にて報告する。現在印刷中である。なお、「背面金剛塔」は雲林寺参道に安置してある。
18. 文献20。
19. 文献26。
20. 文献59。

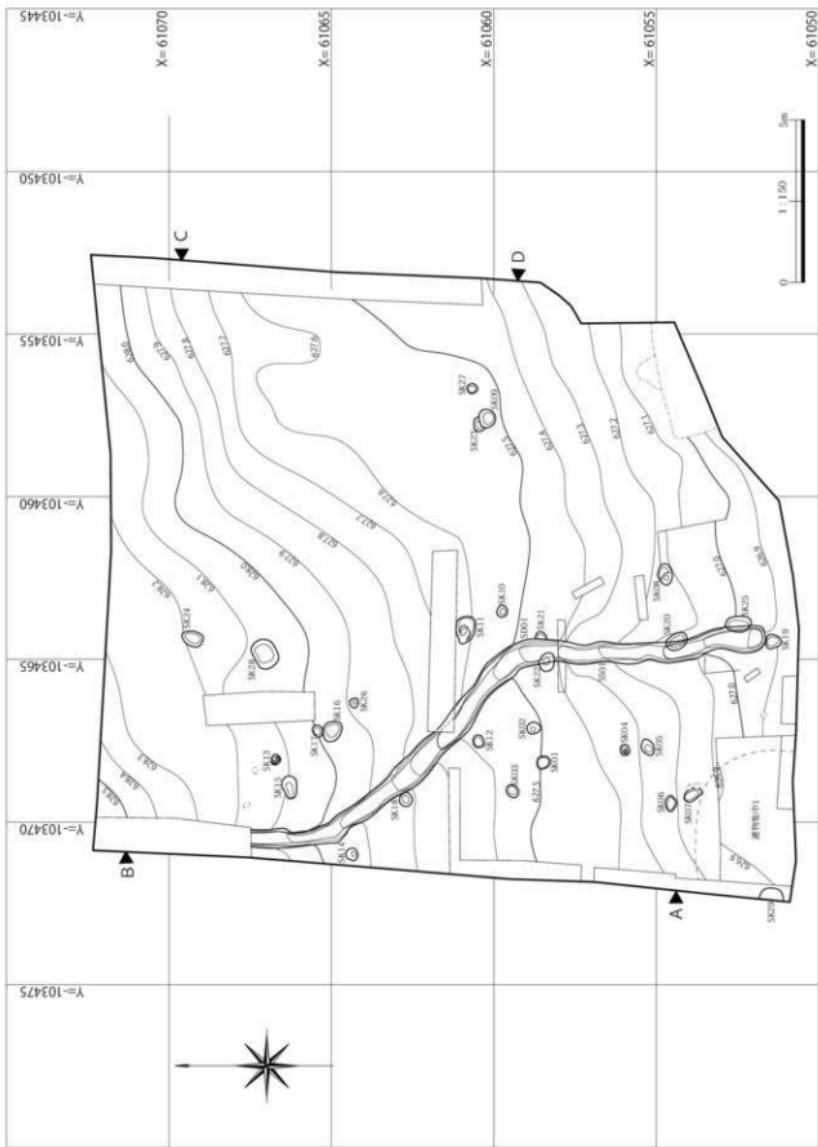
参考文献（第1・2表の文献番号に対応）

- 番号
1. 長野原町 1976 「長野原町誌」上巻
 2. 長野原町教育委員会 1990 「長野原町の遺跡－斯内遺跡詳細分布調査－」長野原町埋蔵文化財調査報告第1集
 3. 長野原町教育委員会 1990 「柳日遺跡」長野原町埋蔵文化財調査報告第2集
 4. 長野原町教育委員会 1992 「長政日遺跡・坪井遺跡」長野原町埋蔵文化財調査報告第3集
 5. 長野原町教育委員会 1995 「柳日遺跡」長野原町埋蔵文化財調査報告第4集
 6. 長野原町教育委員会 1996 「向原遺跡」長野原町埋蔵文化財調査報告第5集
 7. 長野原町教育委員会 1996 「麻原山遺跡」長野原町埋蔵文化財調査報告第6集
 8. 長野原町教育委員会 2000 「坪井遺跡II」長野原町埋蔵文化財調査報告第7集
 9. 長野原町教育委員会 2001 「幕日遺跡」長野原町埋蔵文化財調査報告第8集
 10. 長野原町教育委員会 2002 「町内遺跡I」長野原町埋蔵文化財調査報告第9集
 11. 長野原町教育委員会 2003 「町内遺跡II」長野原町埋蔵文化財調査報告第10集
 12. 長野原町教育委員会 2003 「町内遺跡III」長野原町埋蔵文化財調査報告第11集
 13. 長野原町教育委員会 2005 「小林山遺跡」長野原町埋蔵文化財調査報告第12集
 14. 長野原町教育委員会 2004 「町内遺跡IV」長野原町埋蔵文化財調査報告第13集
 15. 長野原町教育委員会 2004 「林宮遺跡II」長野原町埋蔵文化財調査報告第14集
 16. 長野原町教育委員会 2005 「町内遺跡V」長野原町埋蔵文化財調査報告第15集
 17. 長野原町教育委員会 2006 「町内遺跡VI」長野原町埋蔵文化財調査報告第16集
 18. 長野原町教育委員会 2008 「町内遺跡VII」長野原町埋蔵文化財調査報告第17集

19. 長野原町教育委員会 2009 「町内遺跡調査」長野原町埋蔵文化財調査報告第 18集
20. 長野原町教育委員会 2010 「町内遺跡Ⅸ」長野原町埋蔵文化財調査報告第 19集
21. 長野原町教育委員会 2010 「林中Ⅰ・遺跡Ⅹ」長野原町埋蔵文化財調査報告第 20集
22. 長野原町教育委員会 2011 「町内遺跡Ⅹ」長野原町埋蔵文化財調査報告第 21集
23. 長野原町教育委員会 2012 「町内遺跡Ⅺ」長野原町埋蔵文化財調査報告第 22集
24. 長野原町教育委員会 2012 「林中Ⅱ・遺跡Ⅺ」長野原町埋蔵文化財調査報告第 23集
25. 90東京電力郡馬支店・長野原町教育委員会 2013 「山川Ⅱ・遺跡」長野原町埋蔵文化財調査報告第 24集
26. 長野原町教育委員会 2013 「町内遺跡Ⅻ」長野原町埋蔵文化財調査報告第 25集
27. 長野原町教育委員会 2013 「三平・遺跡」長野原町埋蔵文化財調査報告第 26集
28. 長野原町教育委員会 2013 「町内遺跡ⅩⅢ」長野原町埋蔵文化財調査報告第 27集
29. 長野原町教育委員会 2014 「町内遺跡ⅩⅣ」長野原町埋蔵文化財調査報告第 28集
30. ㈱東京電力郡馬支店・長野原町教育委員会 2014 「ணாகவ遺跡」長野原町埋蔵文化財調査報告第 29集
31. 長野原町教育委員会 2015 「林地Ⅳ・遺跡群」長野原町埋蔵文化財調査報告第 30集
32. 長野原町教育委員会 2016 「町内遺跡ⅩⅤ」長野原町埋蔵文化財調査報告第 31集
33. 長野原町教育委員会 2017 「町内遺跡ⅩⅥ」長野原町埋蔵文化財調査報告第 32集
34. 長野原町教育委員会 2018 「町内遺跡ⅩⅦ」長野原町埋蔵文化財調査報告第 33集
35. 長野原町教育委員会 2018 「観心遺跡」長野原町埋蔵文化財調査報告第 34集
36. 長野原町教育委員会 2019 「町内遺跡ⅩⅧ」長野原町埋蔵文化財調査報告第 35集
37. 長野原町教育委員会 2019 「長野原町Ⅳ遺跡群」長野原町埋蔵文化財調査報告第 36集
38. 長野原町教育委員会 2019 「長野原町Ⅴ遺跡群（2）」長野原町埋蔵文化財調査報告第 37集
39. 長野原町教育委員会 2020 「町内遺跡ⅩⅨ」長野原町埋蔵文化財調査報告第 38集
40. 長野原町教育委員会 2020 「病院跡Ⅳ・遺跡」長野原町埋蔵文化財調査報告第 39集
41. 研究発行会社・長野原町教育委員会 2020 「赤羽根遺跡」長野原町埋蔵文化財調査報告第 40集
42. 小出富田の著者 1936 「赤羽根の世界遺跡」
43. 山崎 一・山口武夫・1972 「長者屋敷の歴史」
44. 駿河新一・1972 「駿馬然と都部役野原町（駿馬然指定史跡）勘査木道跡」
45. 山崎 一・1973 「駿馬然と城壁址の研究」上巻
46. 中 亂之・1979 「石標遺跡略報」長野原町教育委員会・高崎鉄道管理局
47. 郡馬然・1988 「駿馬然」（資料編）
48. 郡馬然教育委員会・1988 「駿馬然の世界遺跡」
49. 長野原町教育委員会・1989 「長野原町の文化財」
50. 長野原町・1993 「長野原町の自然」八ヶ場ダム湖予定地及び関連地域文化財調査報告書
51. 郡馬然立歴史博物館・1995 第 52 回絵画展「アーティングの浅見開け」
52. 上毛新聞社・1999 「郡馬然遺跡大解説」
53. 管轄野川遺跡文化資料館・2000 第 30 回企画展「利根川流域の縄文草創期」
54. かみつけの博物館・2000 第 6 回特別展「縄文について考える」
55. 郡馬然教育委員会・2001 「駿馬の小世界」（原始化代編）
56. 邦野豊野研究文化資料館・2004 第 39 回特展「底の尖った土瓶」
57. 郡馬然立歴史博物館・2004 第 77 回企画展「新見考古古遺跡報 帰馬発掘情報 石室の入り口を通り抜けると…」
58. 開拓開拓ミニアジム・2004 「駿馬然大解説」
59. 郡馬大学教育学部・2004 「尾崎山を據る 駿馬然考古収集古遺物・調査資料目録」雄山閣
60. (財) 郡馬文理・2005 「駿馬の道路Ⅱ 繩文時代」
61. (財) 郡馬文理・2005 「駿馬の道路Ⅲ 中世～近代」
62. かみつけの博物館・2007 第 16 回特別展「江戸時代、浅間山大噴火」
63. 斎田昌吾・2007 「日本の美術史 495 縄文土器 草原陶 昭和」至文堂
64. 小林達雄・2008 「駿馬然土器」
65. 関 徹・2010 「駿間山と噴火の歴史～天正三年浅間山灰吹避峰～」新泉社
66. (公財) 球理文庫・2013 「自然災害と考古学」
67. 宮坂武男・2015 「硝煙をめる墳古山城（上巻編）」戎光出版
68. 郡馬然教育委員会・2017 「郡馬然古跡私鑑 一文・一枚表一」
69. 関 徹・浦山康成・1999 「天明二年浅間苦害に関する地域史的研究」「研究紀要 16」(財) 球理文
70. 白石光男・山川透勝・1999 「外輪山遺跡における縄文土器の縄文層上部」(駿馬考古学手稿 0) 駿馬土器綱領
71. 富山季彦・2000 「外輪山遺跡出土の先住土器」(駿馬考古学手稿 10) 駿馬土器綱領
72. 富山季彦・2002 「外輪山遺跡出土の先住土器」(駿馬考古学手稿 10) 小出富田の「三号縄跡群、三田遺跡群、岩下遺跡、石神遺跡、深泥跡群（本編）」上巻(駿馬然立歴史博物館文化財調査報告書 19 長野原町埋蔵文化財センター)
73. 谷藤保彦・2002 「今井久・2002 「郡馬然出土の縄文時代石器類」(駿馬然立歴史博物館文化財調査報告書 19 長野原町埋蔵文化財センター)
74. 関根誠二・2003 「郡馬然における加賀野E式・大糸形の縄文」(第 16 回開拓セミナー・中崩後半の再検討) 縄文セミナーの会
75. 石田 良・2004 「郡馬然北東部における古代の窯跡の発掘と調査」(駿馬考古学手稿 0) 駿馬土器綱領
76. 関 徹・2005 「天明三年浅間山噴火・苦害調査の特徴と成果」(『古今歴史』吉川弘文館
77. 関 徹・2006 「天明泥煙はどう演じたか?」(今まんじく研究会 20) 駿馬然立文書館
78. 中央防災会議・2006 「J783 年度民間防災大競演」農水省
79. 繁昌喜男・2007 「縄文時代の祭祀と内斎儀式について—幡原山中遺跡調査報告書」「研究紀要 25」(財) 球理文
80. 谷藤保彦・2007 「加賀野E式の系図を引き立てる群馬・北東に於ける後期前頭の相模」と「第 20 回開拓セミナー・中期終末から後期前頭の再検討」(駿文セミナーの会)
81. 関根誠二・2008 「洪溢山を越える縄文土器」(研究紀要 26) (財) 球理文
82. 山口透弘・2009 「ノ平ノ跡 31 号住跡出土土器と再検討」(研究紀要 27) (財) 球理文
83. 繁昌喜男・2009 「八ヶ場ダム建設地域における調査遺跡一気作の試み—一土器遺跡監視把頭の効用—」「研究紀要 27」(財) 球理文
84. 黒澤照弘・大西雅広・2009 「炎威城」(駿馬然・郡馬然の山口)後期における生産と流通:「江戸」戸口附近における庶民向け陶器業の生産と流通 関東・東北・北海道編
85. 山口透弘・2010 「鶴形土器」(土器)に関する再検討」「研究紀要 28」(財) 球理文
86. 横木 博・2010 「中部地方における縄文早期土器群出土の位置付け」「研究紀要 28」(財) 球理文
87. 路木德雄・2010 「縄文之内・土器研究会の認證問題—縄文の内縦の縦型と横型問題式」「第 25 回開拓セミナー・縄文施設土器研究会」「研究紀要 31」(公財) 球理文
88. 山口透弘・2012 「東宮遺跡・天明一年8月5日の縦型」「江戸遺跡研究会報告会 13号」「江戸遺跡研究会
89. 黒澤照弘・2012 「東宮遺跡出土の縄文時代中期後半の縦型と一括併列式古物商を中心として」「研究紀要 31」(公財) 球理文
90. 黒澤照弘・2013 「天明三年浅間山噴火・東宮遺跡」「月刊考古学ジャーナル (640)」ニュー・サイエンス社
91. 黒澤照弘・2013 「東宮遺跡に於ける天明三年新耕八月丘の縦型・調査成果から推測される天明記述被削前の状況」「研究紀要 31」(公財) 球理文
92. 伊藤美香・小原涼子・黒澤照弘・2013 「東宮遺跡出土の縄文遺物について」「研究紀要 31」(公財) 球理文
93. 伊藤美香・2014 「天明三年浅間泥煙調査の3回目と高崎町」「駿馬然立馬学センター・リサーチフェロー研究報告集」「駿馬然立女子大学馬才ゼミナリ
94. 山口透弘・2015 「井伊軒の区域における「縦型」、その種類・報告書」「井伊軒・一本松遺跡 (6) を中心として」「研究紀要 33」(公財) 球理文
95. 小山卓也・吉田洋・舟辺茂之・2015 「北国東海地域における縄文土器の種類」「第 28 回開拓セミナー・縄文後期土器研究の現状と課題」縄文セミナーの会
96. 繁昌喜男・鈴木順一郎・能登智・2016 「郡馬然野原町幡原山中遺跡の近藤島と同様の墓の墓制の研究」「研究紀要 34」(公財) 球理文
97. 山口透弘・2016 「天明三年浅間泥煙調査出土の縄文」「研究紀要 34」(公財) 球理文
98. 大塚雅彦・2016 「天明三年浅間泥煙調査出土の縄文」「研究紀要 34」(公財) 球理文
99. 繁昌喜男・能登智・2016 「高崩野の考古学的検討—郡馬然ハッカ場遺跡を例にして」「駿馬文 327」郡馬然立地域文化研究協議会

100. 谷澤保雄・益昌昌子 2017 「都馬原出土の石碑・石刀」第3回「石刀造成—縄文時代後期前葉期(前)」『研究会要 35』(公財) 郡理文
石川茂 2017 「「竹籠屋」裏の構造—一部馬込御門町中根跡を中心とした分析—」『日本古代 28』 駒澤大学文化研究所
102. 谷澤保雄・鈴木正人郎 2017 「「馬原町内」の遺跡(整)」(東京)住居集団『研究会要 36』(公財) 郡理文
103. 谷澤保雄 2018 「「八ヶ場」地域の縄文時代遺跡」「くさり地域の歴史」「式と器・類型」—「山崎考古学3号」地域考古学研究会
104. 山口弘也 2018 「「八ヶ場」地域の縄文時代遺跡」「くさり地域の歴史」「式と器・類型」—「山崎考古学3号」地域考古学研究会
105. 大府留理文・国交文 2002 「都馬原北部表在地跡の後期古墳遺跡について」『研究会要 37』(公財) 郡理文
106. (財) 郡理文・国交文 2002 「「八ヶ場」地域考古学工事に伴う理成文化財発掘調査報告書第1集
107. (財) 郡理文・国交文 2002 「八ヶ場」地域考古学工事に伴う理成文化財発掘調査報告書第2集
108. (財) 郡理文・国交文 2003 「久々戸遺跡・中根古道跡・下原遺跡・稲原中根跡」(東)八ヶ場ダム建設工事に伴う理成文化財発掘調査報告書第3集
109. (財) 郡理文・国交文 2004 「久々戸遺跡(2)・中根古道跡(2)・西ノ上遺跡・久々戸遺跡・八ヶ場ダム建設工事に伴う理成文化財発掘調査報告書第5集
110. (財) 郡理文・国交文 2005 「稲原中根跡(2)・八ヶ場ダム建設工事に伴う理成文化財発掘調査報告書第6集
111. (財) 郡理文・国交文 2005 「川原湖中根跡(2)・八ヶ場ダム建設工事に伴う理成文化財発掘調査報告書第8集
112. (財) 郡理文・国交文 2006 「稲原中根跡(3)・八ヶ場ダム建設工事に伴う理成文化財発掘調査報告書第7集
113. (財) 郡理文・国交文 2006 「立原古道跡(2)・八ヶ場ダム建設工事に伴う理成文化財発掘調査報告書第9集
114. (財) 郡理文・国交文 2006 「「鳥垂遺跡・猿石遺跡・二川遺跡」八ヶ場ダム建設工事に伴う理成文化財発掘調査報告書第10集
115. (財) 郡理文・国交文 2006 「稲原中根跡(4)・八ヶ場ダム建設工事に伴う理成文化財発掘調査報告書第11集
116. (財) 郡理文・国交文 2006 「立原1遺跡(2)・八ヶ場ダム建設工事に伴う理成文化財発掘調査報告書第12集
117. (財) 郡理文・国交文 2007 「下原遺跡(2)・八ヶ場ダム建設工事に伴う理成文化財発掘調査報告書第13集
118. (財) 郡理文・国交文 2007 「三平(1)・II遺跡(2)・八ヶ場ダム建設工事に伴う理成文化財発掘調査報告書第14集
119. (財) 郡理文・国交文 2007 「稲原中根跡(5)・八ヶ場ダム建設工事に伴う理成文化財発掘調査報告書第15集
120. (財) 郡理文・国交文 2007 「「野原一木松遺跡(2)・八ヶ場ダム建設工事に伴う理成文化財発掘調査報告書第16集
121. (財) 郡理文・国交文 2007 「立原遺跡・上原遺跡・山形古道跡(2)・八ヶ場ダム建設工事に伴う理成文化財発掘調査報告書第17集
122. (財) 郡理文・国交文 2008 「「木道遺跡(1)・八ヶ場ダム建設工事に伴う理成文化財発掘調査報告書第18集
123. (財) 郡理文・国交文 2008 「「野原一木松遺跡(3)・八ヶ場ダム建設工事に伴う理成文化財発掘調査報告書第19集
124. (財) 郡理文・国交文 2008 「稲原中根跡(6)・八ヶ場ダム建設工事に伴う理成文化財発掘調査報告書第20集
125. (財) 郡理文・国交文 2008 「稲原中根跡(7)・八ヶ場ダム建設工事に伴う理成文化財発掘調査報告書第22集
126. (財) 郡理文・国交文 2008 「「ノ平」ノ上遺跡(1)・八ヶ場ダム建設工事に伴う理成文化財発掘調査報告書第23集
127. (財) 郡理文・国交文 2008 「「野原一木松遺跡(4)・八ヶ場ダム建設工事に伴う理成文化財発掘調査報告書第24集
128. (財) 郡理文・国交文 2009 「「武昌遺跡(8)・八ヶ場ダム建設工事に伴う理成文化財発掘調査報告書第26集
129. (財) 郡理文・国交文 2009 「「木道遺跡(2)・八ヶ場ダム建設工事に伴う理成文化財発掘調査報告書第27集
130. (財) 郡理文・国交文 2009 「「野原一木松遺跡(5)・八ヶ場ダム建設工事に伴う理成文化財発掘調査報告書第28集
131. (財) 郡理文・国交文 2009 「稲原中根跡(8)・八ヶ場ダム建設工事に伴う理成文化財発掘調査報告書第29集
132. (財) 郡理文・国交文 2009 「稲原中根跡(9)・八ヶ場ダム建設工事に伴う理成文化財発掘調査報告書第30集
133. (財) 郡理文・国交文 2010 「稲原中根跡(10)・八ヶ場ダム建設工事に伴う理成文化財発掘調査報告書第33集
134. (財) 郡理文・国交文 2010 「稲原中根跡(11)・八ヶ場ダム建設工事に伴う理成文化財発掘調査報告書第34集
135. (財) 郡理文・国交文 2010 「「東宮遺跡(1)・II・III遺跡(2)・八ヶ場ダム建設工事に伴う理成文化財発掘調査報告書第35集
136. (財) 郡理文・国交文 2011 「「東宮遺跡(1)・八ヶ場ダム建設工事に伴う理成文化財発掘調査報告書第36集
137. (財) 郡理文・国交文 2012 「稲原中根跡(2)・八ヶ場ダム建設工事に伴う理成文化財発掘調査報告書第37集
138. (財) 郡理文・国交文 2012 「「東宮遺跡(2)・八ヶ場ダム建設工事に伴う理成文化財発掘調査報告書第38集
139. (財) 郡理文・国交文 2012 「「木道遺跡(1)・上原遺跡(2)・西久保古道跡(2)・八ヶ場ダム建設工事に伴う理成文化財発掘調査報告書第39集
140. (財) 郡理文・国交文 2013 「「野原一木松遺跡(6)・八ヶ場ダム建設工事に伴う理成文化財発掘調査報告書第40集
141. (公財) 郡理文・国交文 2013 「「稲原中根跡(13)・八ヶ場ダム建設工事に伴う理成文化財発掘調査報告書第41集
142. (公財) 郡理文・国交文 2014 「「野原一木松遺跡(7)・八ヶ場ダム建設工事に伴う理成文化財発掘調査報告書第42集
143. (公財) 郡理文・国交文 2014 「「林中古道跡(1)・長野原城跡(2)・八ヶ場ダム建設工事に伴う理成文化財発掘調査報告書第43集
144. (公財) 郡理文・国交文 2014 「「横原中根跡(14)・八ヶ場ダム建設工事に伴う理成文化財発掘調査報告書第44集
145. (公財) 郡理文・国交文 2015 「「町道跡(2)・八ヶ場ダム建設工事に伴う理成文化財発掘調査報告書第45集
146. (公財) 郡理文・国交文 2015 「「野原一木松跡(1)・上原遺跡(2)・林原湖跡(2)・八ヶ場ダム建設工事に伴う理成文化財発掘調査報告書第46集
147. (公財) 郡理文・国交文 2016 「「林中古道跡(2)・八ヶ場ダム建設工事に伴う理成文化財発掘調査報告書第47集
148. (公財) 郡理文・国交文 2016 「「坂道遺跡(2)・八ヶ場ダム建設工事に伴う理成文化財発掘調査報告書第48集
149. (公財) 郡理文・国交文 2017 「「ノ平」ノ上遺跡(2)・八ヶ場ダム建設工事に伴う理成文化財発掘調査報告書第49集
150. (公財) 郡理文・国交文 2017 「「原原遺跡(2)・久々戸遺跡(3)・八ヶ場ダム建設工事に伴う理成文化財発掘調査報告書第50集
151. (公財) 郡理文・国交文 2017 「「兼宮遺跡(3)・八ヶ場ダム建設工事に伴う理成文化財発掘調査報告書第51集
152. (公財) 郡理文・国交文 2017 「「田代古道(2)・八ヶ場ダム建設工事に伴う理成文化財発掘調査報告書第52集
153. (公財) 郡理文・国交文 2018 「「東宮遺跡(1)・八ヶ場ダム建設工事に伴う理成文化財発掘調査報告書第53集
154. (公財) 郡理文・国交文 2018 「「西宮遺跡(1)・西ノ上遺跡(2)・八ヶ場ダム建設工事に伴う理成文化財発掘調査報告書第54集
155. (公財) 郡理文・国交文 2018 「「ノ平」ノ上遺跡(3)・八ヶ場ダム建設工事に伴う理成文化財発掘調査報告書第55集
156. (公財) 郡理文・国交文 2018 「「坂道遺跡(3)・八ヶ場ダム建設工事に伴う理成文化財発掘調査報告書第56集
157. (公財) 郡理文・国交文 2018 「「川原湖跡(2)・坂道遺跡(2)・八ヶ場ダム建設工事に伴う理成文化財発掘調査報告書第57集
158. (公財) 郡理文・国交文 2018 「「川原湖跡(1)・八ヶ場ダム建設工事に伴う理成文化財発掘調査報告書第58集
159. (公財) 郡理文・国交文 2018 「「湯原湖跡(1)・八ヶ場ダム建設工事に伴う理成文化財発掘調査報告書第59集
160. (公財) 郡理文・国交文 2018 「「林中古道跡(2)・八ヶ場ダム建設工事に伴う理成文化財発掘調査報告書第60集
161. (公財) 郡理文・国交文 2019 「「原原遺跡(3)・八ヶ場ダム建設工事に伴う理成文化財発掘調査報告書第61集
162. (公財) 郡理文・国交文 2019 「「野原一木松遺跡(1)・上原遺跡(2)・八ヶ場ダム建設工事に伴う理成文化財発掘調査報告書第62集
163. (公財) 郡理文・国交文 2019 「「林中古道跡(3)・八ヶ場ダム建設工事に伴う理成文化財発掘調査報告書第63集
164. (公財) 郡理文・国交文 2019 「「ノ平」ノ上遺跡(2)・八ヶ場ダム建設工事に伴う理成文化財発掘調査報告書第64集
165. (公財) 郡理文・国交文 2019 「「久々戸」ノ上遺跡(2)・八ヶ場ダム建設工事に伴う理成文化財発掘調査報告書第65集
166. (公財) 郡理文・国交文 2019 「「川原湖跡(3)・八ヶ場ダム建設工事に伴う理成文化財発掘調査報告書第66集
167. (財) 郡理文・公財 2019 「「越原久々戸遺跡(2)・林道近原野原古道(2)・市場原古道(2)・櫛塚(2)」橿生に伴う理成文化財発掘調査報告書(Ⅲ) 郡理文調査報告書 第 240 集
168. 郡理文・公財 2019 「「坂道遺跡(2)・社会資本整備組合交付企事業(活力創出推進整備)・長野原川河川整備に伴う理成文化財発掘調査報告書」(公財)
郡理文調査報告書 第 546 集
169. 国学院大学二文学部考古学研究室 2017 「都馬原出土の野原湖跡家以前遺跡」『2014年度発掘調査報告書』国学院大学文学部考古学実習報告 第 53 集
170. 国学院大学二文学部考古学研究室 2015-2019 現地説明会資料 「野原家以前遺跡発掘調査(第2次・第6次調査)」
171. 江口康浩 2019 「都馬原古家以前遺跡群に付ける縄文早期人の先祖層」『日本考古学会誌 85 別録集』 研究発表要旨
172. 近藤 修 2019 「「家原」古以降遺跡群の縄文早期人の同位体分析」『日本考古学会誌 85 別録集』 研究発表要旨
173. 田中 伸 2019 「「家原」古以降遺跡群の縄文早期人の同位体分析」『日本考古学会誌 85 別録集』 研究発表要旨
174. 藤田信人・水野文洋 2019 「ミシシッピアリゾン」DNA から見た都馬原古道の出土品の遺物の系統性」『日本考古学会誌 85 別録集』 研究発表要旨
175. (財) 郡理文 1995 「年報14」
176. (財) 郡理文 1996 「年報15」
177. (財) 郡理文 1997 「年報16」
178. (財) 郡理文 1998 「年報17」
179. (財) 郡理文 1999 「年報18」
180. (財) 郡理文 2000 「年報19」
181. (財) 郡理文 2001 「年報20」

182. (財) 郡理文 2002 「東京21」
183. (財) 郡理文 2003 「東京22」
184. (財) 郡理文 2004 「東京23」
185. (財) 郡理文 2005 「東京24」
186. (財) 郡理文 2006 「東京25」
187. (財) 郡理文 2007 「東京26」
188. (財) 郡理文 2008 「東京27」
189. (財) 郡理文 2009 「東京28」
190. (財) 郡理文 2010 「東京29」
191. (公財) 郡理文 2013 「東京32」
192. (公財) 郡理文 2014 「東京33」
193. (公財) 郡理文 2015 「東京34」
194. (公財) 郡理文 2016 「東京35」
195. (公財) 郡理文 2017 「東京36」
196. (公財) 郡理文 2018 「東京37」
197. (公財) 郡理文 2019 「東京38」
198. (財) 郡理文 1995 「道跡は今 第1号」
199. (財) 郡理文 1996 「道跡は今 第2号」
200. (財) 郡理文 1998 「道跡は今 第3号」
201. (財) 郡理文 1997 「道跡は今 第4号」
202. (財) 郡理文 1997 「道跡は今 第5号」
203. (財) 郡理文 1998 「道跡は今 第6号」
204. (財) 郡理文 1999 「道跡は今 第7号」
205. (財) 郡理文 2000 「道跡は今 第8号」
206. (財) 郡理文 2000 「道跡は今 第9号」
207. (財) 郡理文 2000 「道跡は今 第10号」
208. (財) 郡理文 2002 「道跡は今 第11号」
209. (財) 郡理文 2003 「道跡は今 第12号」
210. (財) 郡理文 2003 「道跡は今 第13号」
211. (財) 郡理文 2004 「道跡は今 第14号」
212. (財) 郡理文 2007 「道跡は今 第15号」
213. (財) 郡理文 2008 「道跡は今 第16号」
214. (財) 郡理文 2009 「道跡は今 第17号」
215. (財) 郡理文 2010 「道跡は今 第18号」
216. (財) 郡理文 2011 「道跡は今 第19号」
217. (財) 郡理文 2012 「道跡は今 第20号」
218. (財) 郡理文 2013 「道跡は今 第21号」
219. (財) 郡理文 2014 「道跡は今 第22号」
220. (財) 郡理文 2015 「道跡は今 第23号」
221. (財) 郡理文 2015 「道跡は今 第24号」
222. (財) 郡理文 2017 「道跡は今 第25号」
223. (財) 郡理文 2018 「道跡は今 第26号」
224. (財) 郡理文 2019 「道跡は今 第27号」
225. 稲原正洋 2008 「明治時代に呑まれた屋敷の謎—長野原町東宮道跡—」『理文郡馬47』(公財) 郡理文
226. 飯山陽一 2012 「東宮道跡ハッ場で発掘された江戸時代—『理文郡馬56』(公財) 郡理文
227. 萩崎徹也→中原 信 2015 「東宮道跡—安土城の歴史から見えてきた江戸時代の川原郷村—」『理文郡馬59』(公財) 郡理文
228. 菊藤利昭・麻生勝也 2015 「石川道跡—見てきた江戸時代の川原郷村の歴史—『理文郡馬60』(公財) 郡理文
229. 中原 信 2016 「下原道跡—大内川流域の川原郷村から見えてきた江戸時代の川原郷村—」『理文郡馬61』(公財) 郡理文
230. 朝 仰樹・小林茂夫 2016 「久々井道跡—大内川流域の川原郷村から見えてきた江戸時代の川原郷村—」『理文郡馬61』(公財) 郡理文
231. 山口豊也 2016 「中臣日置道跡—鎌倉時代の堀切—後醍醐天皇の御宿跡—」『理文郡馬61』(公財) 郡理文
232. 石坂 健・飛田野正作 2017 「東宮道跡—委を覗いた江戸時代以前の東宮集落—」『理文郡馬62』(公財) 郡理文
233. 吉下 寛・石田 真・園 明恵・飯田直一 2018 「西宮道跡—江戸時代の建物群・建築部材の発見と機織り具—」『理文郡馬63』(公財) 郡理文
234. (公財) 郡理文 2015 平成27年度調査説明会発表会「東宮道跡・西宮道跡の調査」
235. (公財) 郡理文 2016 平成28年度調査説明会発表会「長野原町石川道跡の調査」
236. (公財) 郡理文・琵琶湖町教育委員会 2018 平成30年度調査道跡会見会「発掘されたハッ場の軌跡」
237. (公財) 郡理文 2012 平成24年度最新情報展 第1期「東宮道跡ハッ場で発掘された江戸時代」
238. (公財) 郡理文 2016 平成28年度最新情報展 第1期「丹波地域の織文文化・古代人の心」
239. (公財) 郡理文 2017 平成29年度最新情報展 第1期「よみがえった江戸時代の村—大明三年浅間配流下の発掘調査から」
240. (公財) 郡理文 2018 平成29年度最新情報展 第3期「一万年つく粉食文化—織文タッキーからおきりこみまで—」
241. (公財) 郡理文 2019 平成30年度最新情報展 第3期「古の袋身孔」
242. (公財) 郡理文 2019 令和元年度最新情報展 第1期「ハッ場の調査」
243. (公財) 郡理文 2019 令和元年度最新情報展 第2期「江戸時代の天明配流に処刑した村」
244. 松島榮治 2010 理祓文化財講座「天明三年の地域社会—罪原の発願からハッ場ダムまで—」
245. 黒澤照弘 2014 理祓文化財講座「天明の御開山噴火—その時、東宮道跡の人々はどうしたか…」
246. 山口豊也 2016 理祓文化財講座「久々井道跡構造の敷石仕入」
247. 飯島康徳 2016 理祓文化財講座「発掘された幕馬の城」
248. 間 駿明 2016 理祓文化財講座「江戸民家—大明三年の浅間掛け前日の風景—」



第5図 調査区全体図 (1/150)

第3章 検出された遺構と遺物

第1節 概要

本調査地点で検出された遺構は、縄文時代後期前半の遺物集中1箇所と土坑29基、時期不明の溝状遺構1条である。遺構の分布は調査区西側に偏っており、谷地形に近い調査区北東側では検出されない。遺物集中箇所は当初敷石住居跡と考えていたが、掘り下げてみると、床石をはじめ跡や柱穴といった諸要素が見当たらなかつたため、途中から遺物集中として取り扱った。土坑としたものは、単層のものが大多数を占め、出土遺物も少ないことから時期不明なものがほとんどである。

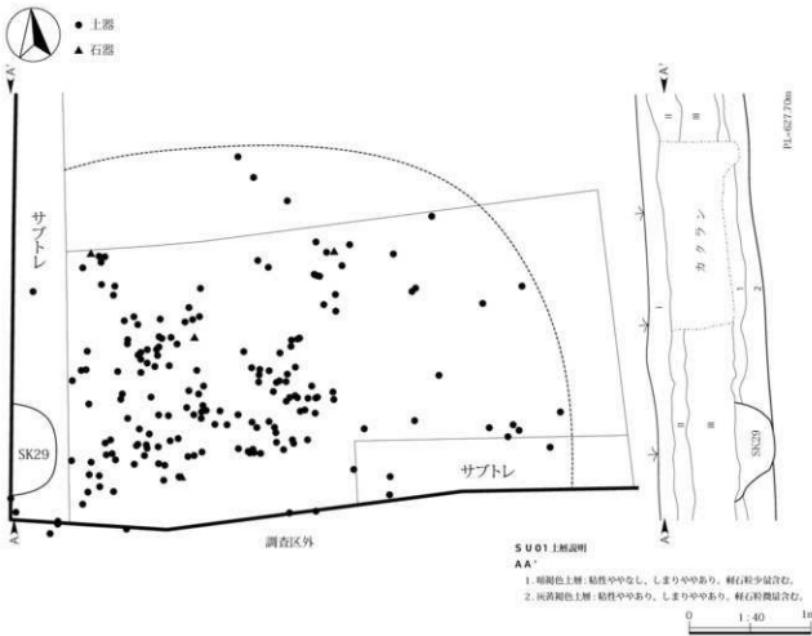
第2節 遺物集中

1号遺物集中 (SU01) (第6~10図／PL 3~6)

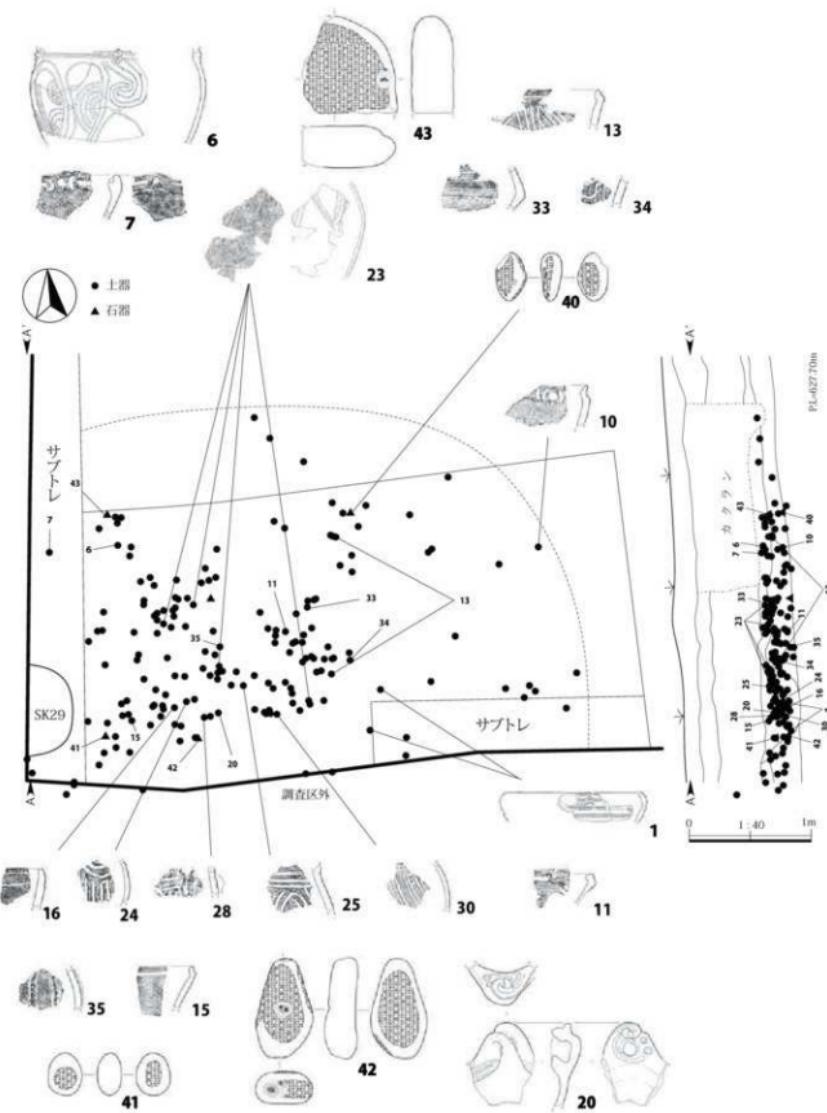
位置 調査区南西隅。

重複関係 SK29と重複し、これに切られている。

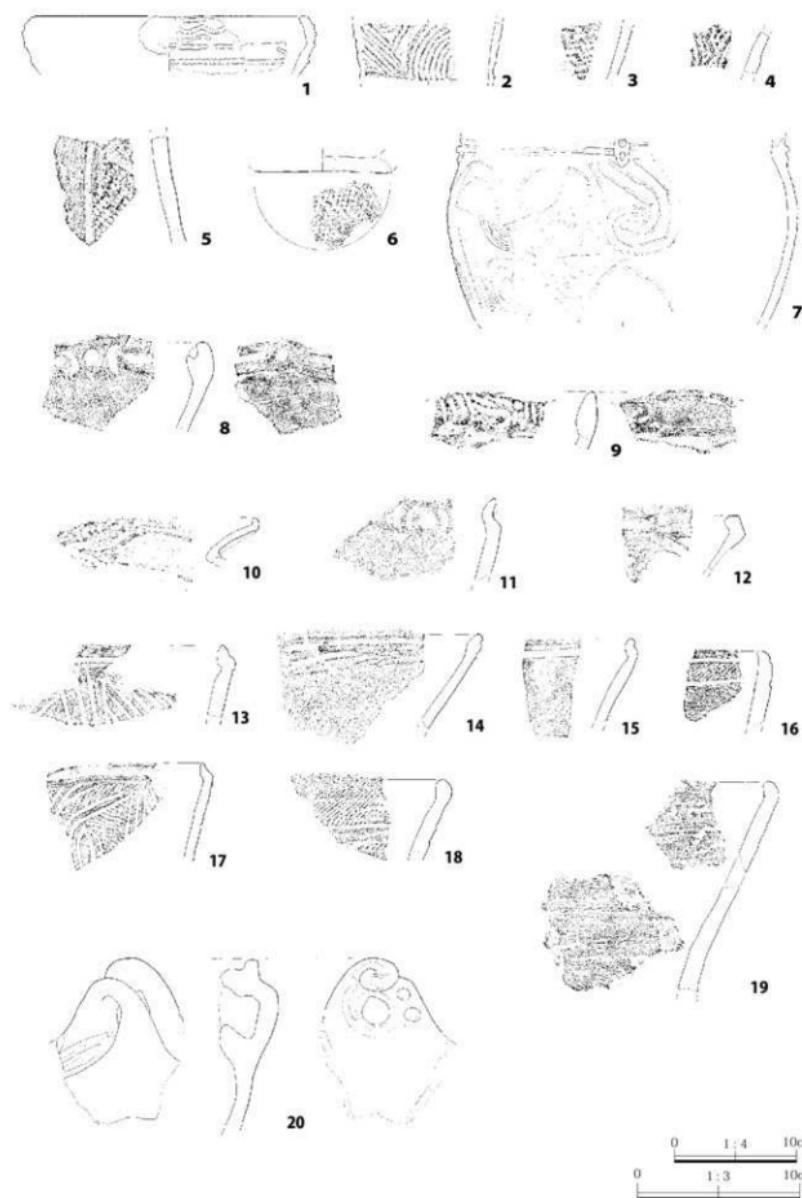
遺存状態 良好。



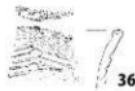
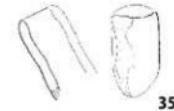
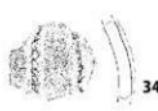
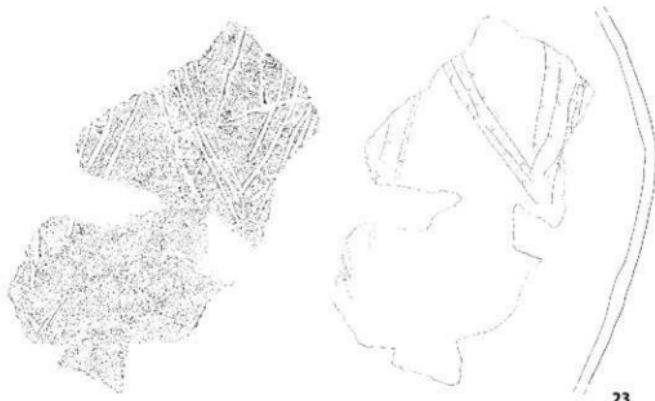
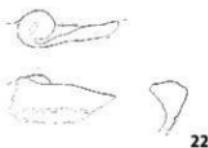
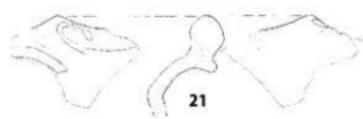
第6図 SU01実測図 (1/40)



第7図 SU01遺物出土状況図 (1/40)

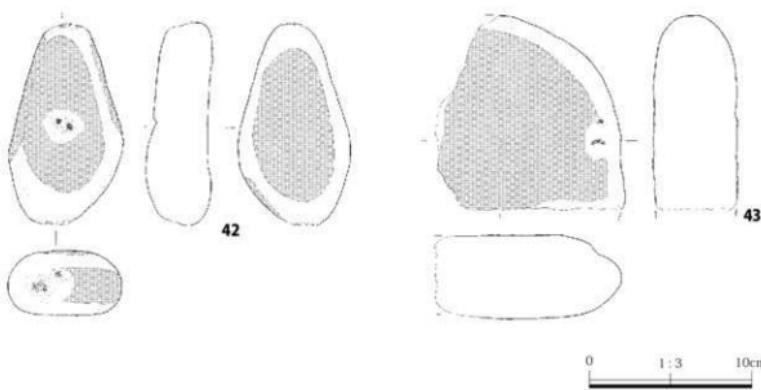
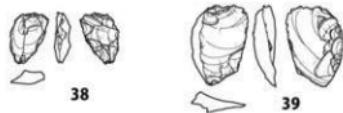
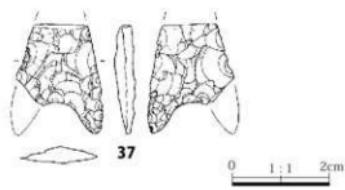


第8図 SU01出土遺物実測図1 (1/4・1/3)



0 1:3 10cm

第9図 SU01出土遺物実測図2 (1/3)



第10図 SU01出土遺物実測図3 (1/1・1/3)

覆土 暗褐色土を基調とし、自然堆積を示している。

平面形と規模 平面形は不明であるが、遺物の分布範囲から梢円形もしくは隅丸長方形を呈すると考えられる。規模は東西460cm、南北312cm、確認面からの深さ30cmを測る。

主軸方位 N-1°-W。

壁面 未確認である。

遺物出土状況 本遺構は遺物の分布から設定している。

遺物 総出土量は縄文土器片483点(7,645g)、石器11点(1,970.2g)の合計494点(9,615.8g)である。そのうち縄文土器36点(第8・9図)、石器7点(第10図)を図示し得た。土器は①前期後半から末葉(第8図1~4)、②中期後半(第8図5)、③後期前半(第8図6~第9図36)に分類できる。

第3節 土 坑

SK01 (第11・15図／P L 6・12)

位置 調査区西側中央。

重複関係 なし。

遺存状態 良好。

覆土 単層である。

平面形と規模 平面形は不整梢円形を呈する。規模は長軸44cm、短軸41cm、確認面からの深さ10cmを測る。

主軸方位 N-40°-W。

壁面 外傾して立ち上がっている。

底面 平坦である。

遺物 総出土量は縄文土器2点(28g)のみである。そのうち土器1点(第15図1)を図示し得た。

SK02 (第11・15図／P L 6・12)

位置 調査区西側中央。

重複関係 なし。

遺存状態 良好。

覆土 暗褐色土を基調とし、自然堆積を示している。

平面形と規模 平面形は不整円形を呈し、規模は長軸38cm、短軸34cm、確認面からの深さ21cmを測る。

主軸方位 N-2°-W。

壁面 継やかに外傾して立ち上がっている。

底面 凹状を呈している。

遺物 総出土量は縄文土器片1点(24g)のみである。そのうち土器1点(第15図2)を図示し得た。

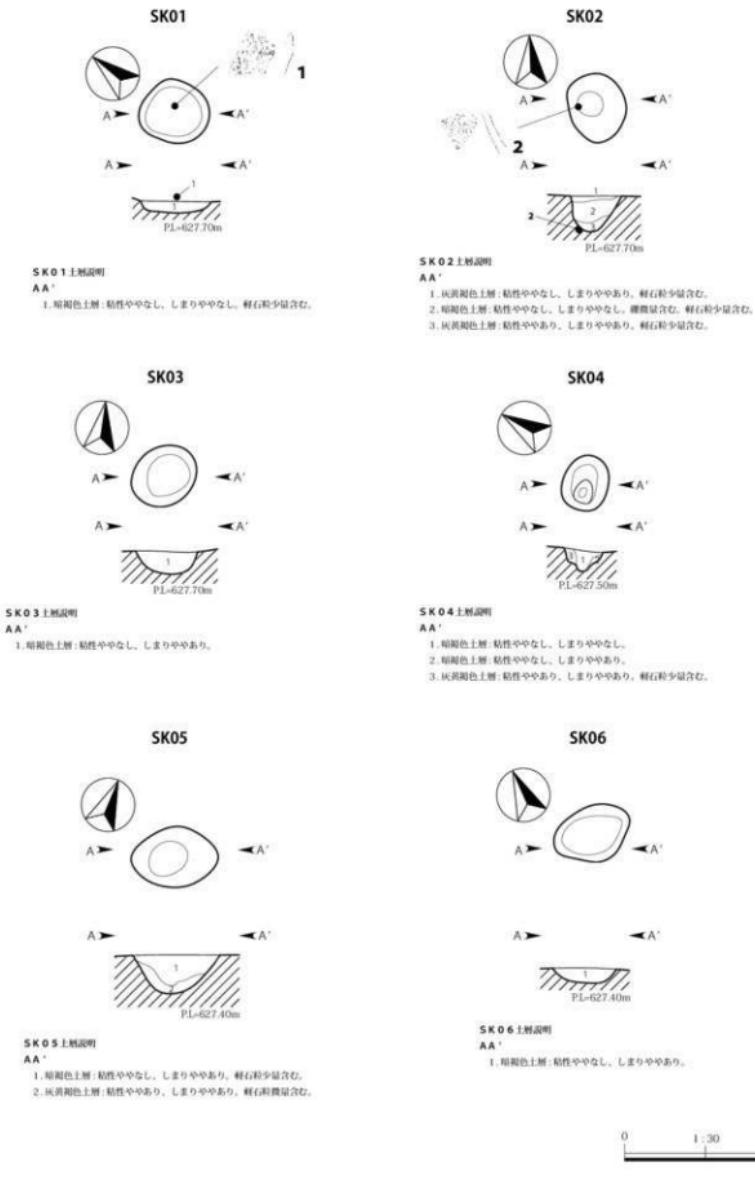
SK03 (第11図／P L 6)

位置 調査区西側中央。

重複関係 なし。

遺存状態 良好。

覆土 単層である。



第11図 SK01～SK06実測図 (1/30)

平面形と規模 平面形は不整円形を呈する。規模は長軸42cm、短軸36cm、確認面からの深さ13cmを測る。

主軸方位 N-61°-E。

壁面 外傾して立ち上がっている。

底面 凹状を呈している。

遺物 なし。

SK04 (第11図／PL 7)

位置 調査区南西側。

重複関係 なし。

遺存状態 良好。

覆土 。

平面形と規模 平面形はを呈する。規模は長軸35cm、短軸27cm、確認面からの深さ15cmを測る。

主軸方位 N-67°-E。

壁面 外傾して立ち上がっている。

底面 ピット状を呈している。

遺物 なし。

SK05 (第11図／PL 7)

位置 調査区南西側。

重複関係 SiO₂と重複し、これに切られている。

遺存状態 全体の2分の1の検出であるが、遺存状態は良好である。

覆土 暗褐色土を基調とし、自然堆積を示している。

平面形と規模 平面形は梢円形を呈する。規模は長軸54cm、短軸39cm、確認面からの深さ23cmを測る。

主軸方位 N-66°-E。

壁面 外傾して立ち上がっている。

底面 凹状を呈している。

遺物 なし。

SK06 (第11図)

位置 調査区南西側。

重複関係 なし。

遺存状態 良好。

覆土 単層である。

平面形と規模 平面形は不整梢円形を呈する。規模は長軸51cm、短軸36cm、確認面からの深さ12cmを測る。

主軸方位 N-88°-E。

壁面 外傾して立ち上がっている。

底面 ほぼ平坦である。

遺物 なし。

SK07 (第12図／PL 7)

位置 調査区南西側。

重複関係 なし。

遺存状態 良好。

覆土 単層である。

平面形と規模 平面形は楕円形を呈する。規模は長軸58cm、短軸35cm、確認面からの深さ14cmを測る。

主軸方位 N-24°-W。

壁面 外傾して立ち上がっている。

底面 凸凹している。

遺物 なし。

SK08 (第12図／PL 7)

位置 調査区南側中央。

重複関係 なし。

遺存状態 良好。

覆土 暗褐色土を基調とし、自然堆積を示している。

平面形と規模 平面形は楕円形を呈する。規模は長軸65cm、短軸45cm、確認面からの深さ32cmを測る。

主軸方位 N-82°-E。

壁面 外傾して立ち上がっている。

底面 凸状を呈している。

遺物 なし。

SK09 (第12図／PL 8)

位置 1区北側中央。

重複関係 SK23と重複し、これを切っている。

遺存状態 良好。

覆土 暗褐色土を基調とし、自然堆積を示している。

平面形と規模 平面形は不整円形を呈する。規模は長軸57cm、短軸53cm、確認面からの深さ24cmを測る。

主軸方位 N-53°-E。

壁面 外傾して立ち上がっている。

底面 平坦で南東側に傾斜している。

遺物 なし。

SK10 (第12図／PL 8)

位置 調査区中央。

重複関係 なし。

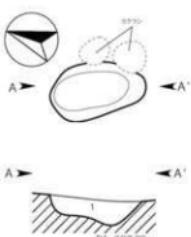
遺存状態 良好。

覆土 単層である。

平面形と規模 平面形は円形を呈する。規模は長軸54cm、短軸33cm、確認面からの深さ23cmを測る。

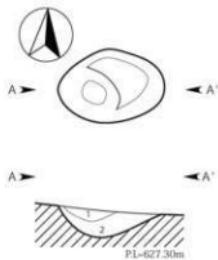
主軸方位 N-82°-W。

SK07

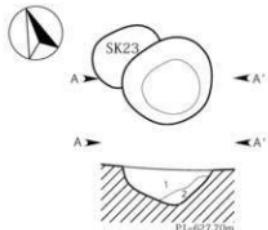
SK07上部説明
AA'

1. 明褐色土層：粘性ややなし、しまりややあり。明褐色土混じる。軽石粒微量含む。

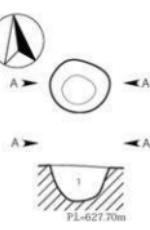
SK08

SK08上部説明
AA'1. 明褐色土層：粘性ややあり、しまりややあり。微微量含む。
2. 灰褐色土層：粘性ややあり、しまりややあり。

SK09

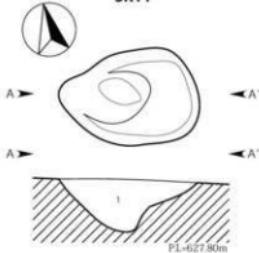
SK09上部説明
AA'1. 明褐色土層：粘性ややなし、しまりややなし。礫多量含む。軽石粒微量含む。
2. 灰褐色土層：粘性なし。しまりややあり。礫少量含む。軽石粒微量含む。

SK10

SK10上部説明
AA'

1. 灰褐色土層：粘性ややなし、しまりややなし。軽石粒微量含む。

SK11

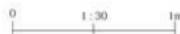
SK11上部説明
AA'

1. 明褐色土層：粘性ややあり。しまりあり。

SK12

SK12上部説明
AA'

1. 灰褐色土層：粘性ややなし、しまりややなし。



第12図 SK07～SK12実測図 (1/30)

壁面 外傾して立ち上がっている。

底面 凸状を呈している。

遺物 なし。

SK11 (第12図／PL 8)

位置 調査区中央。

重複関係 なし。

遺存状態 良好。

覆土 単層である。

平面形と規模 平面形は不整梢円形を呈する。規模は長軸87cm、短軸60cm、確認面からの深さ34cmを測る。

主軸方位 N-78°-W。

壁面 外傾して立ち上がっている。

底面 2段に掘り込まれており、凸状を呈している。

遺物

SK12 (第12図／PL 8)

位置 調査区西側中央。

重複関係 なし。

遺存状態 良好。

覆土 単層である。

平面形と規模 平面形は円形を呈する。規模は長軸41cm、短軸36cm、確認面からの深さ19cmを測る。

主軸方位 N-29°-E。

壁面 外傾して立ち上がっている。

底面 凸状を呈している。

遺物 なし。

SK13 (第13図／PL 8)

位置 調査区北西側。

重複関係 なし。

遺存状態 良好。

覆土 暗褐色土を基調とし、自然堆積を示している。

平面形と規模 平面形は不整円形を呈する。規模は長軸31cm、短軸27cm、確認面からの深さ24cmを測る。

主軸方位 N-52°-W。

壁面 外傾して立ち上がっている。

底面 凸状を呈している。

遺物 なし。

SK14 (第13図／PL 9・12)

位置 調査区西側中央。

重複関係 なし。

遺存状態 良好。

覆土 単層である。

平面形と規模 平面形は不整円形を呈する。規模は長軸39cm、短軸36cm、確認面からの深さ14cmを測る。

主軸方位 N-60°-E。

壁面 外傾して立ち上がっている。

底面 凹状を呈している。

遺物 総出土量は縄文土器片3点(19g)のみであるが図示するには至らなかった。

SK15 (第13図／PL 9)

位置 調査区北西側。

重複関係 なし。

遺存状態 良好。

覆土 単層である。

平面形と規模 平面形は不整梢円形を呈する。規模は長軸72cm、短軸48cm、確認面からの深さ25cmを測る。

主軸方位 N-80°-E。

壁面 外傾して立ち上がっている。

底面 凹状を呈している。

遺物 なし。

SK16 (第13・15図／PL 9・12)

位置 調査区西側中央。

重複関係 SK17と接するが重複なし。

遺存状態 良好。

覆土 暗褐色土を基調とし、自然堆積を示している。

平面形と規模 平面形は不整梢円形を呈する。規模は長軸71cm、短軸56cm、確認面からの深さ20cmを測る。

主軸方位 N-53°-W。

壁面 外傾して立ち上がっている。

底面 ほぼ平坦である。

遺物 総出土量は縄文土器片4点(56g)と石器1点(446g)の合計5点(502g)である。そのうち土器1点(第15図3)と石器1点(第15図4)を図示し得た。

SK17 (第13図／PL 9)

位置 調査区西側中央。

重複関係 SK16と接しているが重複なし。

遺存状態 良好。

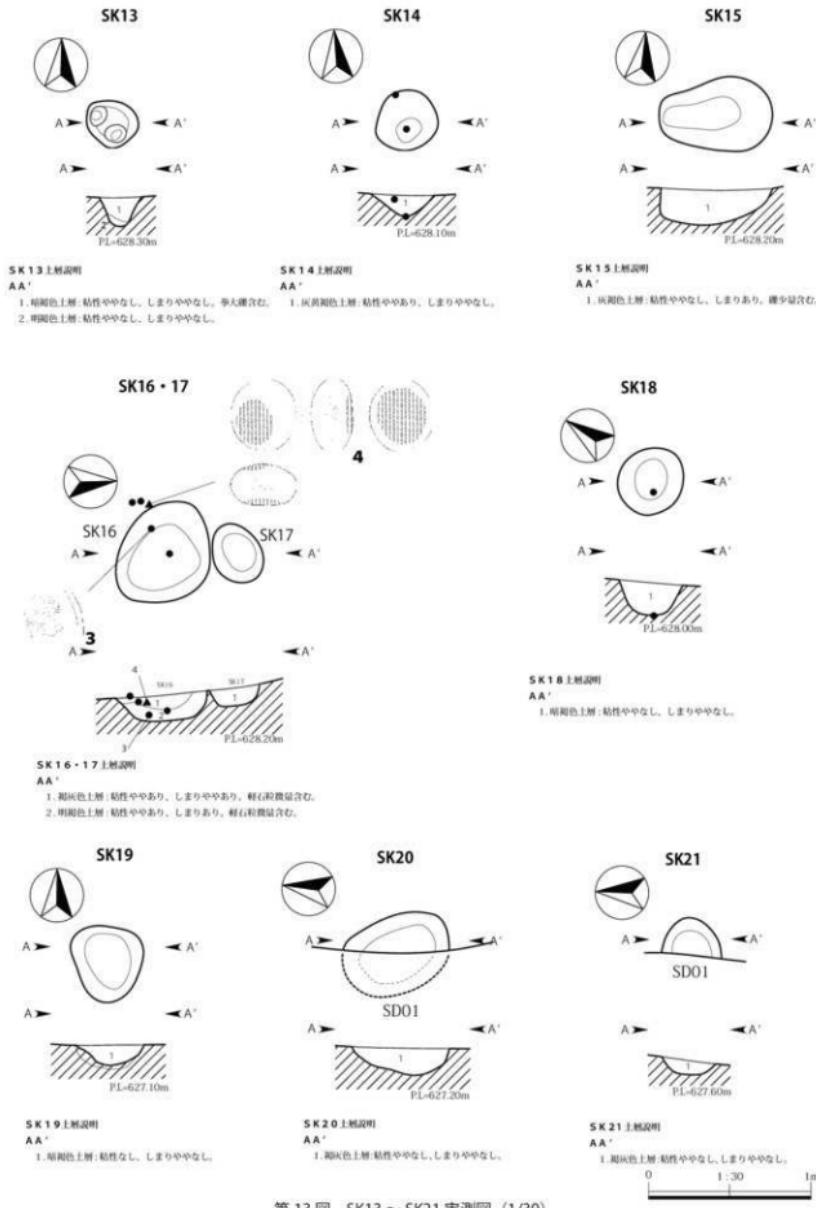
覆土 単層である。

平面形と規模 平面形は梢円形を呈する。規模は長軸41cm、短軸31cm、確認面からの深さ15cmを測る。

主軸方位 N-66°-E。

壁面 外傾して立ち上がっている。

底面 ほぼ平坦である。



第13図 SK13～SK21実測図 (1/30)

遺物 なし。

SK18 (第13図／P L 10)

位置 調査区西側中央。

重複関係 SD01と接するが重複なし。

遺存状態 良好。

覆土 単層である。

平面形と規模 平面形は円形を呈する。規模は長軸45cm、短軸39cm、確認面からの深さ22cmを測る。

主軸方位 N-61°-E。

壁面 外傾して立ち上がっている。

底面 垂状を呈している。

遺物 総出土量は縄文土器片2点(13g)のみであるが図示するには至らなかった。

SK19 (第13図／P L 10)

位置 調査区南側中央。

重複関係 SD01と接するが重複なし。

遺存状態 良好。

覆土 単層である。

平面形と規模 平面形は不整円形を呈する。規模は長軸48cm、短軸45cm、確認面からの深さ16cmを測る。

主軸方位 N-3°-E。

壁面 緩やかに外傾して立ち上がっている。

底面 垂状を呈している。

遺物 なし。

SK20 (第13図／P L 10)

位置 調査区南側中央。

重複関係 SD01と重複し、これを切っている。

遺存状態 良好。

覆土 単層である。

平面形と規模 平面形は梢円形を呈する。規模は長軸69cm、短軸48cm、確認面からの深さ22cmを測る。

主軸方位 N-35°-W。

壁面 外傾して立ち上がっている。

底面 垂状を呈している。

遺物 なし。

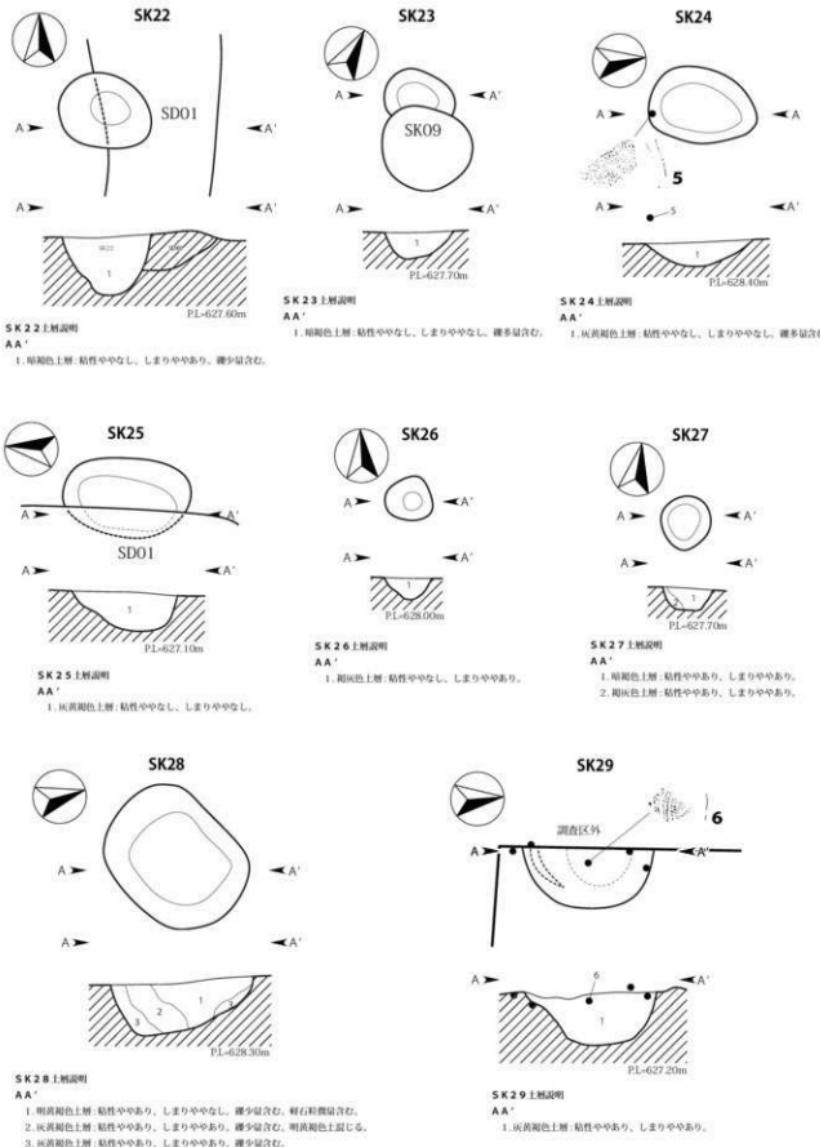
SK21 (第13図／P L 10)

位置 調査区中央。

重複関係 SD01と重複し、これに切られている。

遺存状態 約2分の1の遺存である。

覆土 単層である。



第14図 SK22～SK29実測図 (1/30)

平面形と規模 平面形は円形を呈すると考えられ、規模は長軸24cm以上、短軸39cm以上、確認面からの深さ11cmを測る。

主軸方位 N-82°-E。

壁面 外傾して立ち上がっている。

底面 ほぼ平坦である。

遺物 なし。

SK22（第14図／PL 10）

位置 調査区中央。

重複関係 SD01と重複し、これを切っている。

遺存状態 良好。

覆土 単層である。

平面形と規模 平面形は楕円形を呈する。規模は長軸60cm、短軸45cm、確認面からの深さ37cmを測る。

主軸方位 N-70°-W。

壁面 外傾して立ち上がっている。

底面 凹状を呈している。

遺物 なし。

SK23（第14図／PL 10・11）

位置 調査区東側中央。

重複関係 SK09と重複し、これに切られている。

遺存状態 全体の約3分の1の遺存である。

覆土 単層である。

平面形と規模 平面形は楕円形を呈すると考えられ、規模は長軸45cm、短軸33cm以上、確認面からの深さ16cmを測る。

主軸方位 N-86°-E。

壁面 外傾して立ち上がっている。

底面 凹状を呈している。

遺物 なし。

SK24（第14・15図／PL 11・12）

位置 調査区北側中央。

重複関係 なし。

遺存状態 良好。

覆土 単層である。

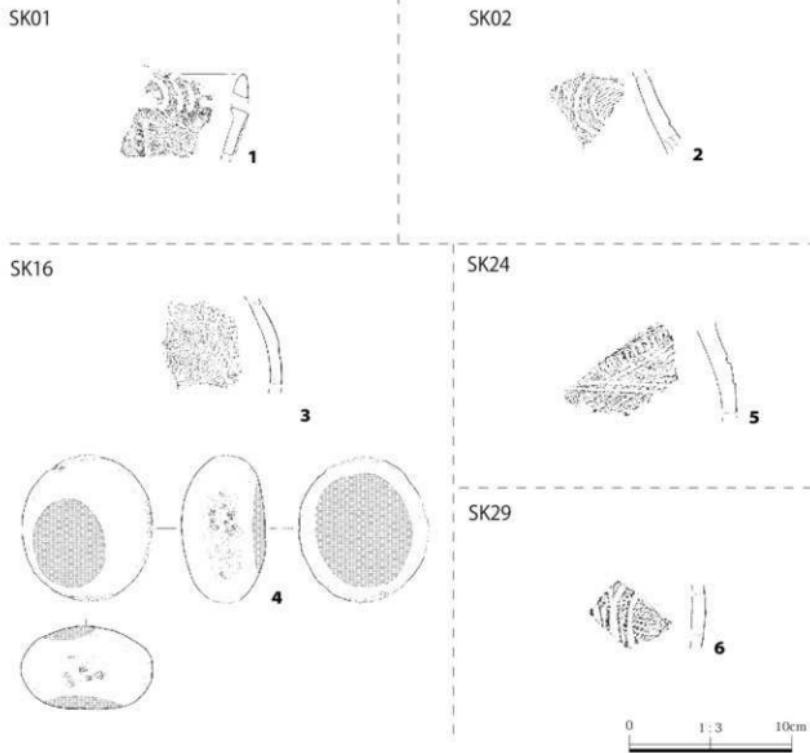
平面形と規模 平面形は楕円形を呈する。規模は長軸68cm、短軸46cm、確認面からの深さ18cmを測る。

主軸方位 N-19°-E。

壁面 外傾して立ち上がっている。

底面 凹状を呈している。

遺物 総出土量は縄文土器片2点(48g)である。そのうち土器1点(第15図5)を図示し得た。



第15図 土坑出土遺物実測図 (1/3)

SK25 (第14図／P L 11)

位置 調査区南側中央。

重複関係 SD01と重複し、これを切っている。

遺存状態 良好。

覆土 単層である。

平面形と規模 平面形は橢円形を呈する。規模は長軸78cm、短軸51cm、深さ25cmを測る。

主軸方位 N-4°-E。

壁面 外傾して立ち上がっている。

底面 ほぼ平坦である。

遺物 なし。

SK26 (第10図／P L 12・13・18)

位置 調査区西側中央。

重複関係 なし。

遺存状態 良好。

覆土 単層である。

平面形と規模 平面形は不整円形を呈する。規模は直径33cm、確認面からの深さ14cmを測る。

主軸方位 N-69°-W。

壁面 外傾して立ち上がっている。

底面 凹状を呈している。

遺物 なし。

SK27 (第14図／P L 11)

位置 調査区東側中央。

重複関係 なし。

遺存状態 良好。

覆土 暗褐色土を基調とし、自然堆積を示している。

平面形と規模 平面形は円形を呈する。規模は長軸36cm、短軸30cm、確認面からの深さ13cmを測る。

主軸方位 N-12°-W。

壁面 外傾して立ち上がっている。

底面 ほぼ平坦である。

遺物 なし。

SK28 (第14図／P L 11・12)

位置 調査区北側中央。

重複関係 なし。

遺存状態 良好。

覆土 暗褐色土を基調とし、自然堆積を示している。

平面形と規模 平面形は隅丸長方形を呈する。規模は長軸92cm、短軸72cm、確認面からの深さ35cmを測る。

主軸方位 N-58°-E。

壁面 外傾して立ち上がっている。

底面 ほぼ平坦である。

遺物 なし。

SK29 (第14・15図／P L 12)

位置 調査区南西隅。

重複関係 SU01と重複し、これを切っている。

遺存状態 全体の2分の1の検出で調査区外に延びている。

覆土 単層である。

平面形と規模 平面形は梢円形を呈すると考えられ、規模は長軸75cm、短軸39cm以上、確認面からの深さ34cmを測る。

主軸方位 N-6°-E。

壁面 外傾して立ち上がっている。

底面 ほぼ平坦である。

遺物 総出土量は縄文土器片5点(168g)である。そのうち、土器1点(第15図6)を図示し得た。

第4節 溝状遺構

SD01 (第16・17図／P L 12・13)

位置 調査区北西隅～中央西側・中央～南側中央。

重複関係 SK20～22・25と重複し、SK21を切り、それ以外に切られている。

遺存状態 南端は検出したが、北側は調査区外へ延びている。遺存状態は良好である。

覆土 暗褐色土を基調とし、自然堆積を示している。

形状と規模 検出長は18.1m、幅は45～78cm、確認面からの深さは24cmを測る。断面形は逆台形・U字状を呈する。

走行方向 N-15°-W。

遺物 総出土量は縄文土器片20点(415g)と石器1点(86g)の合計21点(501g)である。そのうち土器3点(第17図)を図示し得た。

第5節 遺構外出土遺物

ここでは調査区表土及び遺構内の流れ込み遺物、サブトレ出土遺物を一括して取り扱う。遺構外出土遺物は縄文時代前期後半～後期前半まで出土しているが、後期前葉が大部分を占める。

(1) 土 器

以下の3群に大別する。

I群 縄文時代前期の土器を一括する(第19図1～5)。

1～5は縄文時代前期後半諸磯式併行に比定される。の中でも1は器壁が薄く、頸部が括れるプロポーション、縄文地に口縁部外面に横位隆帯(波状3段・直線4段)を貼り付けており、その特徴から東海～北陸系の北白川下層式に比定される。

II群 縄文時代中期の土器を一括する(第19図6)。

1点のみで、6は中期中葉の焼町土器に比定される。

III群 縄文時代後期の土器を一括する(第19図7～23)。

7～9は縄文時代後期初頭称名寺式、10～23は縄文時代後期前半壺之内式に比定される。

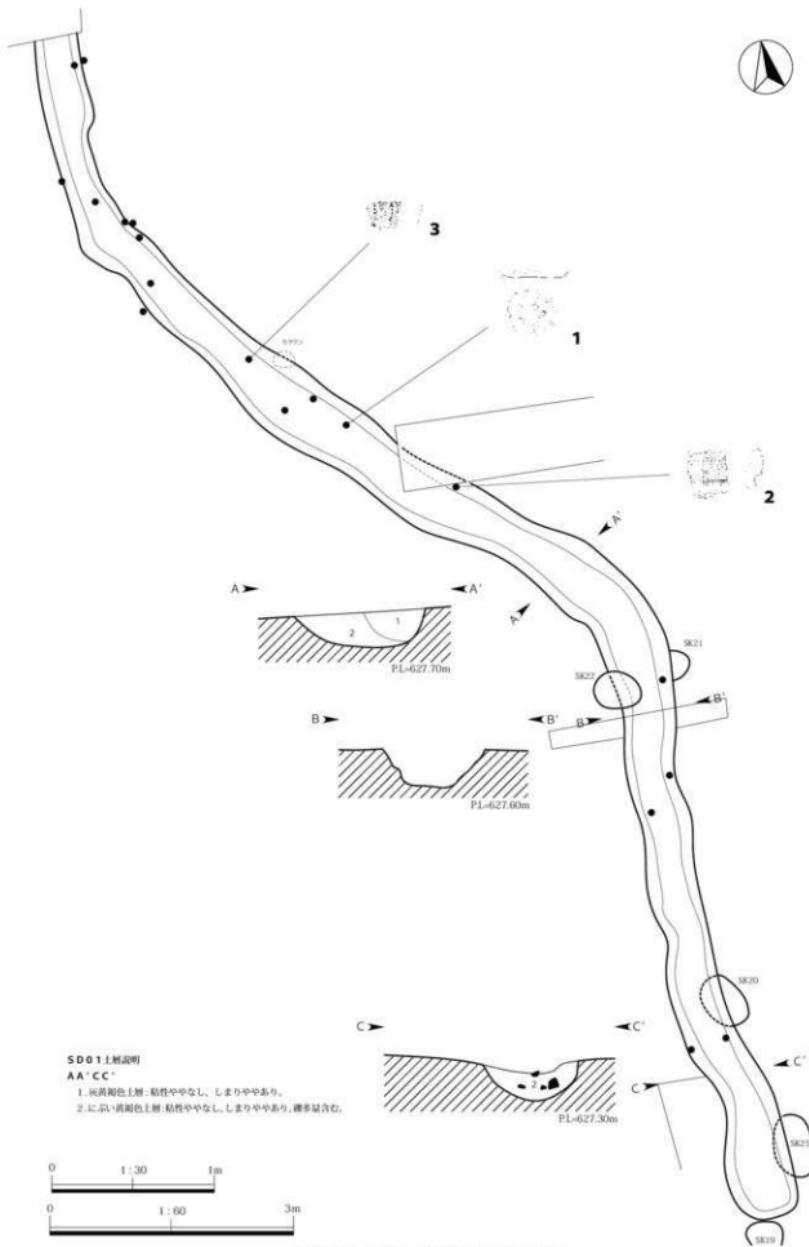
(2) 土製品

1点のみ認められた。第19図24は土製円板と考えられ、2箇所に研磨痕が認められる。

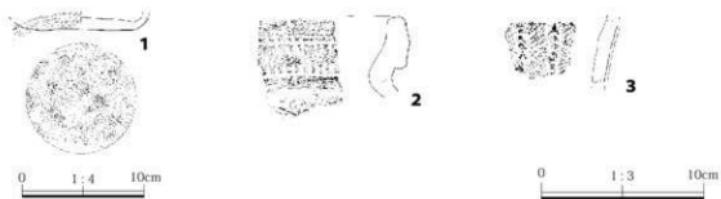
(3) 石 器

①剥片石器類

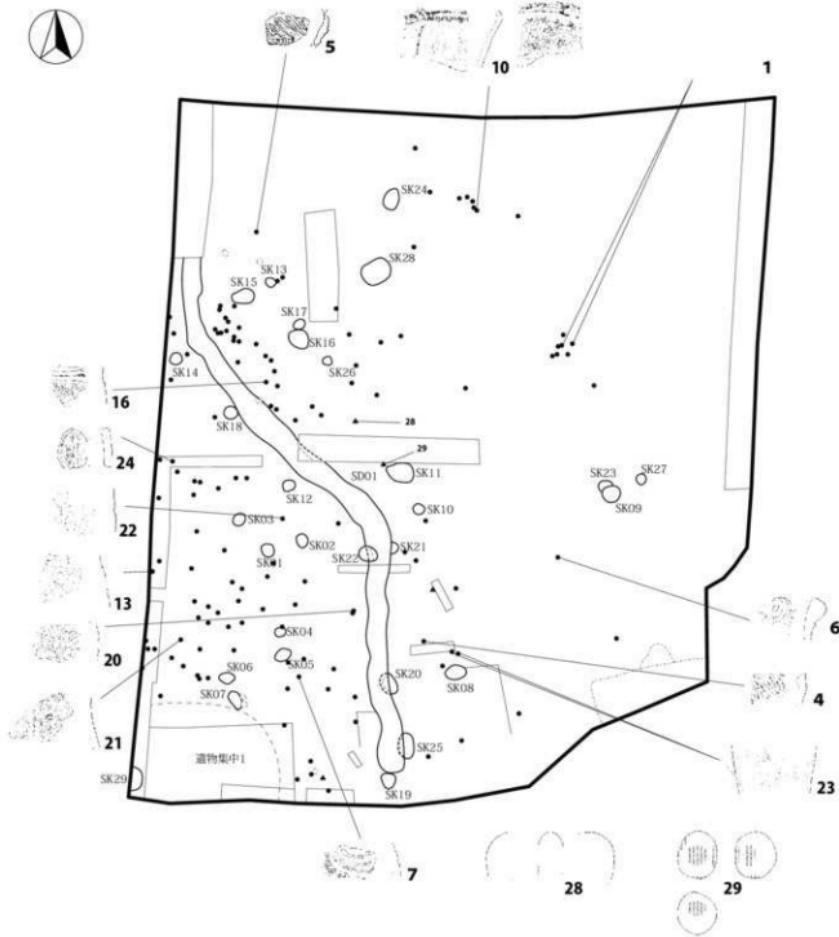
a. 石鏃(第20図25)



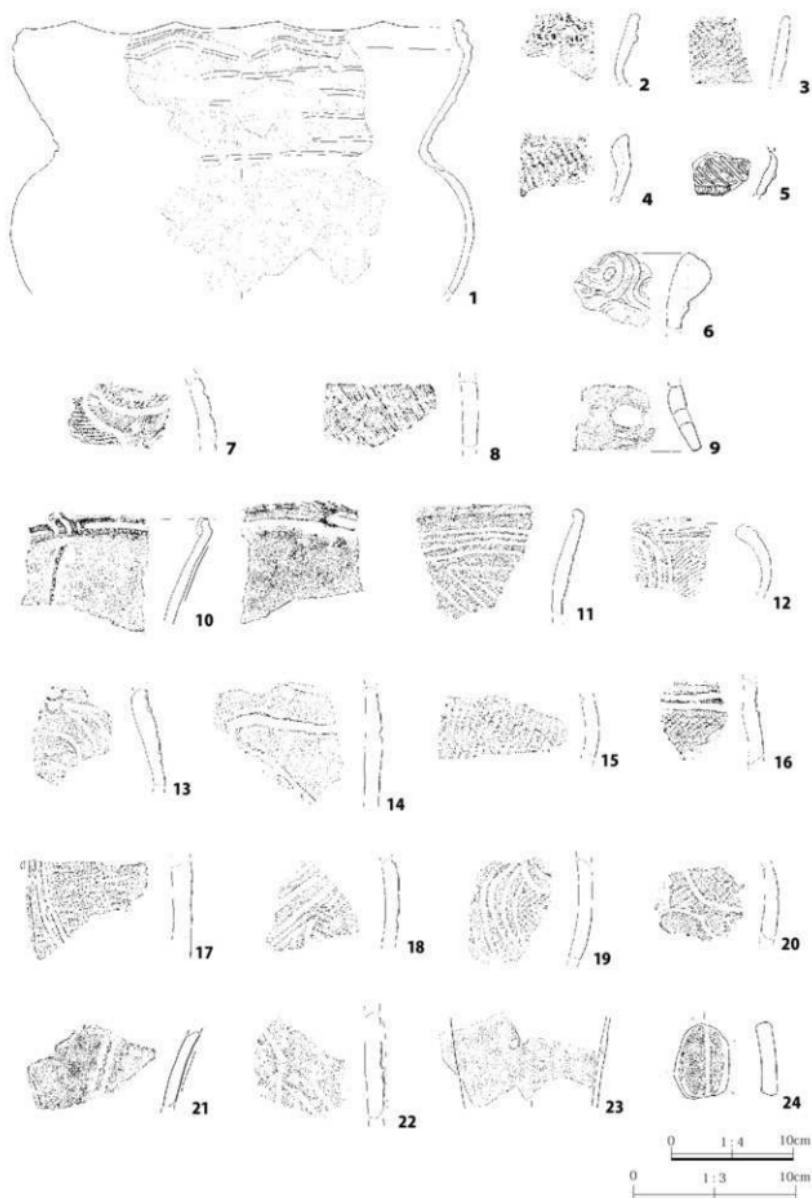
第16図 SD01 実測図 (1/60・1/30)



第17図 SD01出土遺物実測図 (1/4・1/3)



第18図 遺構外出土遺物分布図 (1/150)

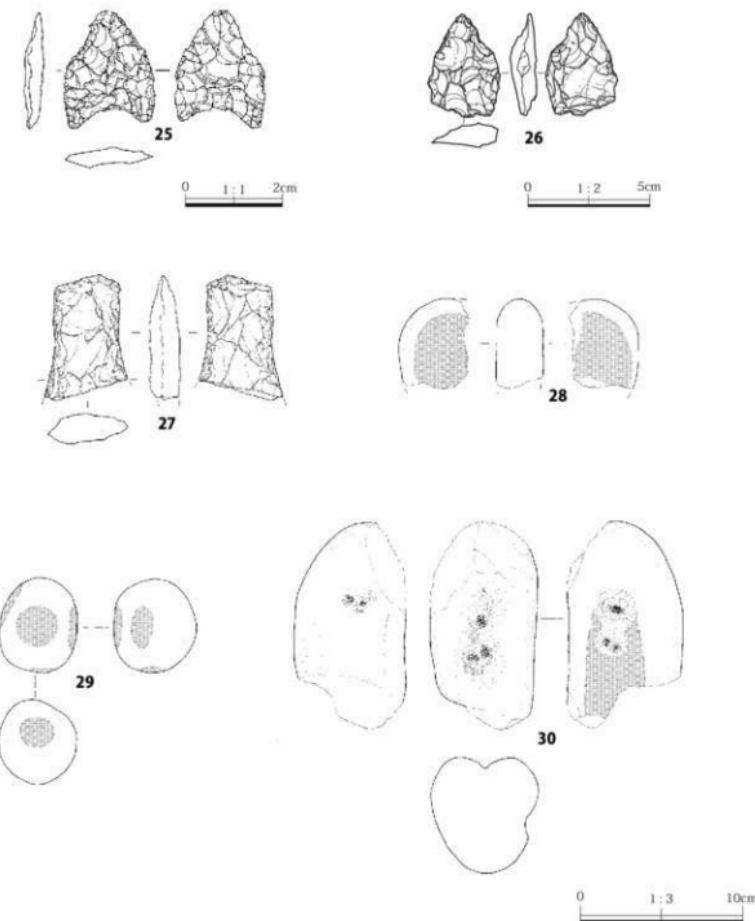


第19図 遺構外出土遺物実測図1 (1/4・1/3)

- 1点のみである。25は凹基三角。
- b. 二次加工のある剥片（第20図26）
- ②打製石斧類（第20図27）
- 1点のみである。刃部を欠損しているが、平撥形を呈すると考えられる。

③砾石器類

- a. 磨石（第20図28・29）
- b. 磨石+凹石（第20図30）



第20図 遺構外出土遺物実測図2 (1/1・1/2・1/3)

第3表 林中原1遺跡X帯出土遺物観察表

S101出土遺物観察表

標記NO.	器種 NO.	器種	性質	出土地点・季節	特徴	出土・付帯物	色調	外型・小形	備考
8.1	5	縄文土器・深杯	(4.7) / < 22.4 > / ~	1.19部内面、外面は褐色・有光澤面。内面は輪郭線ナギ。	良好	小鏡・長石	灰・褐	口縁・脚部 20%窓有	
8.2	5	縄文土器・深杯	(4.7) / ~ / ~	内面は斜・弧の下腹斜面。内面は斜ナギ。	良好	骨質・白陶	灰・褐	直筒・高脚 (体部)	
8.3	5	縄文土器・深杯	(3.5) / ~ / ~	内面は斜・弧の下腹斜面。内面は輪郭線ナギ。	良好	角閃石・石英	灰・黒	直筒・高脚 (体部) 3・4・5段一側脚。	
8.4	5	縄文土器・深杯	(2.7) / ~ / ~	内面は斜・弧の下腹斜面。内面は輪郭線ナギ。	良好	角閃石	黒	直筒・高脚 (体部)	
8.5	5	縄文土器・深杯	(6.6) / ~ / ~	内面は輪郭線の外腹斜面・輪郭線文。内面は輪郭ミガキ。	良好	白色系・白色系	灰・白	直筒・高脚 (体部)	
8.6	5	縄文土器・深杯	(1.2) / ~ / < 11.4 >	内面は斜ナギ。底は斜面・輪郭ミガキ。面部には輪郭線の輪郭線と2~3字の刻文。体部は2~3字の刻文。	良好	白色系・白色系	灰・白	直筒・高脚 (体部)	
8.7	5	縄文土器・深杯	(5.0) / ~ / ~	5・6部内面は斜面・輪郭ミガキ。面部には輪郭線の輪郭線と2~3字の刻文。体部は2~3字の刻文。	良好	白色系・白色系	灰・白	直筒・高脚 (体部)	
8.8	5	縄文土器・深杯	(5.5) / ~ / ~	5部内面は斜面・輪郭ミガキ。面部には輪郭線の輪郭線と2~3字の刻文。体部は2~3字の刻文。	良好	白色系・白色系	灰・白	直筒・高脚 (体部)	
8.9	5	縄文土器・深杯	(3.5) / ~ / ~	5部内面は斜面・輪郭ミガキ。面部には輪郭線の輪郭線と2~3字の刻文。内面は輪郭ミガキ。	良好	白色系・白色系	灰・白	直筒・高脚 (体部)	
8.10	5	縄文土器・深杯	(2.6) / ~ / ~	5部内面は斜面・輪郭ミガキ。面部には輪郭線の輪郭線と2~3字の刻文。内面は輪郭ミガキ。	良好	角閃石	灰・白	直筒・高脚 (体部)	
8.11	5	縄文土器・浅杯	(5.0) / ~ / ~	5部内面は斜面・輪郭ミガキ。面部には輪郭線の輪郭線と2~3字の刻文。内面は輪郭ミガキ。	良好	白色系・白色系	灰・白	直筒・高脚 (体部)	
8.12	5	縄文土器・深杯	(3.0) / ~ / ~	5部内面は斜面・輪郭ミガキ。面部には輪郭線の輪郭線と2~3字の刻文。内面は輪郭ミガキ。	良好	白色系・白色系	灰・白	直筒・高脚 (体部)	
8.13	5	縄文土器・深杯	(4.4) / ~ / ~	5部内面は斜面・輪郭ミガキ。面部には輪郭線の輪郭線と2~3字の刻文。内面は輪郭ミガキ。	良好	白色系・白色系	灰・白	直筒・高脚 (体部)	
8.14	5	縄文土器・深杯	(5.8) / ~ / ~	5部内面は斜面・輪郭ミガキ。面部には輪郭線の輪郭線と2~3字の刻文。内面は輪郭ミガキ。	良好	白色系・白色系	灰・白	直筒・高脚 (体部)	
8.15	5	縄文土器・深杯	(5.1) / ~ / ~	1.19部内面。内面は輪郭線の輪郭線。内面は輪郭ミガキ。	良好	角閃石	灰・白	直筒・高脚 (体部)	
8.16	5	縄文土器・深杯	(4.6) / ~ / ~	内面は輪郭線の輪郭線。内面は輪郭ミガキ。	良好	角閃石	灰・白	直筒・高脚 (体部)	
8.17	5	縄文土器・深杯	(6.0) / ~ / ~	1.19部内面。内面は輪郭線の輪郭線。内面は輪郭ミガキ。	良好	白色系・白色系	灰・白	直筒・高脚 (体部)	
8.18	5	縄文土器・深杯	(5.0) / ~ / ~	1.19部内面。内面は輪郭線の輪郭線。内面は輪郭ミガキ。	良好	角閃石	灰・白	直筒・高脚 (体部)	
8.19	5	縄文土器・深杯	(12.0) / ~ / ~	内面は輪郭ミガキ。面部には輪郭線ナギ。	良好	角閃石	灰・白	直筒・高脚 (体部)	
8.20	5	縄文土器・深杯	(10.2) / ~ / ~	内面は輪郭ミガキ。面部には輪郭線ナギ。	良好	角閃石	灰・白	直筒・高脚 (体部)	
9.21	5	縄文土器・深杯	(5.7) / ~ / ~	直筒工部。山形突起。上部に輪ナギの輪郭。内面は輪郭ミガキ。	良好	角閃石・長石	灰・白	直筒・高脚 (体部)	
9.22	5	縄文土器・深杯	(2.9) / ~ / ~	直筒状突起。外縁は2条の輪郭線。内面は輪郭ミガキ。	良好	白色系・白色系	灰・白	直筒・高脚 (体部)	
9.23	5	縄文土器・深杯	(22.5) / ~ / ~	内面は3条の輪郭の輪郭ミガキ。	良好	角閃石	灰・白	直筒・高脚 (体部)	
9.24	5	縄文土器・深杯	(4.9) / ~ / ~	外縁は輪郭ミガキ。内面は輪郭ミガキ後脱出ミガキ。	良好	白色系・白色系	灰・白	直筒・高脚 (体部)	
9.25	5	縄文土器・深杯	(5.5) / ~ / ~	内面は2~3条の輪郭の輪郭ミガキ。	良好	角閃石	灰・白	直筒・高脚 (体部)	
9.26	5	縄文土器・深杯	(5.5) / ~ / ~	内面は2~3条の輪郭の輪郭ミガキ。	良好	角閃石	灰・白	直筒・高脚 (体部)	
9.27	5	縄文土器・深杯	(4.8) / ~ / ~	内面は輪郭ミガキ。	良好	白色系・白色系	灰・白	直筒・高脚 (体部)	
9.28	5	縄文土器・深杯	(3.3) / ~ / ~	内面は8字型輪郭文。2条半輪の輪郭。内面は輪郭ミガキ。	良好	白色系・白色系	灰・白	直筒・高脚 (体部)	

地名	面積(ha)	標高(m)	水系	土質	施工・耕作	色調	外觀	備註
一 田 原	9.275	5	周之瀬・深林	(2.4) /~/-	外湖は湖面に浮く垂れ木林。内湖は三方合流。	良好	角閃石・雲母 角閃石・雲母	褐色/灰褐色 (14.8)
	9.30	5	周之瀬・深林	(4.5) /~/-	外湖は三方合流の湖底生長帶と島状林・林間湖。内湖は三方合流の湖底に島状林。内湖は島状林。	良好	角閃石・雲母 角閃石・雲母	褐色/灰褐色 (14.8)
	9.31	5	周之瀬・深林	(4.1) /~/-	外湖は三方合流の湖底生長帶と島状林。内湖は島状林。湖底は島状林から玄武岩。周辺は島状林。	良好	角閃石・雲母 角閃石・雲母	褐色/灰褐色 (14.8)
	9.32	5	周之瀬・桂口	(5.0) /~/-	島状林。外湖は三方合流の湖底生長帶と島状林。内湖は島状林から玄武岩。周辺は島状林。	良好	角閃石・雲母 角閃石・雲母	褐色/灰褐色 (14.8)
	9.33	5	周之瀬・深林	(3.1) /~/-	外湖は三方合流の湖底。内湖は島状林。	良好	角閃石・雲母 角閃石・雲母	褐色/灰褐色 (14.8)
	9.34	5	周之瀬・深林	(4.8) /~/-	外湖は三方合流の湖底。内湖は島状林。	良好	角閃石・雲母 角閃石・雲母	褐色/灰褐色 (14.8)
	9.35	5	周之瀬・桂口	(4.4) /~/-	周辺は三方合流の湖底。内湖は島状林。	良好	角閃石・雲母 角閃石・雲母	褐色/灰褐色 (14.8)
	9.36	5	周之瀬・深林	(3.3) /~/-	外湖は三方合流の湖底。内湖は島状林。	良好	角閃石・雲母 角閃石・雲母	褐色/灰褐色 (14.8)
	10.37	6	神立石原・石頭	長 2.3 / 幅 1.8 / 厚 0.4 1.76g	湖底は三方合流の湖底。	~	ガラス質 黒墨石	80%灰褐色
	10.38	6	神立石原・神立石頭	長 2.1 / 幅 1.6 / 厚 0.7 1.76g	湖底は三方合流の湖底。	~	ガラス質 黒墨石	完全
	10.39	6	神立石原・神立石頭	長 3.3 / 幅 2.3 / 厚 0.9 5.09g	湖底は三方合流の湖底。	~	チャート 粗粒變質岩/安山岩	完全
	10.40	6	神立石原・神立石頭	長 5.9 / 幅 3.7 / 厚 2.6 6.8g	湖底は三方合流の湖底。	~	粗粒變質岩/安山岩	96%灰褐色
	10.41	6	神立石原・神石	長 5.2 / 幅 4.2 / 厚 3.0 8.6g	湖底は三方合流の湖底。	~	粗粒變質岩/安山岩	完全
	10.42	6	神立石原・神石	長 12.5 / 幅 7.1 / 厚 4.0 40.2g	湖底は三方合流の湖底。	~	粗粒變質岩/安山岩	完全
	10.43	6	神立石原・神石	長 11.0 / 幅 5.2 11.05g	湖底は三方合流の湖底。	~	粗粒變質岩/安山岩	25%灰褐色

表 索物遇物出土

5D01 出土遺物類聚表

地名	施主・作業者	色調 (正面・背面)	備考
横井	石井・内田	灰白・白色	に白い砂利/に白い砂利/無
横井	白井・内田	白・白色	に白い砂利/に白い砂利/無
横井	白井・内田	白・白色	に白い砂利/に白い砂利/無

遺構外出土遺物目次表

編番	品名	材質・特徴	基準	概要	備考
19.1	14 陶文上器・深林	(22.0) /<--35.2>/--	外は織物の縫合から剥離した繊維で、内面は土色。内面は輪郭として切られ、内側は土色である。袋状の形である。内面は輪郭として切られ、内側は土色である。	良好	陶土・骨灰・石片・自然石・高砂岩 内面・白色・自然石
19.2	14 陶文上器・深林	(4.3) /--/-	内面は輪郭とし、内側は土色である。輪郭は土色とし、内面は輪郭を施す。	良好	陶土・白磁
19.3	14 陶文上器・深林	(4.8) /--/-	内面は輪郭とし、内側は土色である。輪郭は土色とし、内面は輪郭を施す。	良好	陶土・白磁
19.4	14 陶文上器・深林	(3.8) /--/-	内面は輪郭とし、内側は土色である。輪郭は土色とし、内面は輪郭を施す。	良好	白色釉・小罐
19.5	14 陶文上器・深林	(2.7) /--/-	縫合から剥離した繊維で、内面は土色である。外側は縫合部に輪郭の手書き文字、LR 繩文である。	良好	白色釉・白磁
19.6	14 陶文上器・深林	(4.6) /--/-	縫合を付ける。内面は輪郭を施す。	良好	陶土・白磁
19.7	14 陶文上器・深林	(3.8) /--/-	内面は輪郭の手書き文字、LR 繩文である。内面は輪郭を施す。	良好	白色釉・小罐
19.8	14 陶文上器・深林	(4.0) /--/-	縫合は5条位の手書き。内面は輪郭を施す。	良好	陶土・白磁
19.9	14 陶文上器・竹形上器	(4.1) /--/-	PRをもつ織物。外側・内面ともに輪郭を付す。	良好	陶土・白磁
19.10	14 陶文上器・深林	(6.4) /--/-	縫合部から剥離した繊維で、内面は土色である。縫合部に輪郭の手書き文字である。	良好	白色釉・白磁
19.11	14 陶文上器・深林	(6.5) /--/-	内面は輪郭を施す。	良好	陶土・白磁
19.12	14 陶文上器・深林	(4.2) /--/-	縫合部に輪郭を施す。内面は輪郭を施す。	良好	白色釉
19.13	14 陶文上器・深林	(6.0) /--/-	縫合は8字で施す。縫合・直角あり。内面は輪郭を施す。	良好	陶土・赤色土
19.14	14 陶文上器・深林	(7.5) /--/-	内面は土色である。縫合部に輪郭を施す。	良好	赤色釉・白磁
19.15	14 陶文上器・深林	(3.6) /--/-	内面は輪郭を施す。	良好	赤色釉・白磁
19.16	14 陶文上器・深林	(5.3) /--/-	内面は輪郭を施す。縫合部に輪郭を施す。	良好	赤色釉
19.17	14 陶文上器・深林	(5.5) /--/-	縫合はLR 繩文を施す。縫合部に輪郭を施す。内面は輪郭を施す。	良好	白色釉・小罐
19.18	14 陶文上器・深林	(5.7) /--/-	縫合は2条位の手書きによる輪郭文である。内面は輪郭を施す。	良好	白色釉・小罐
19.19	14 陶文上器・深林	(6.2) /--/-	内面はLR 繩文を施すとし、2条位の手書きによる輪郭文。内面は輪郭を施す。	良好	白色釉・白磁
19.20	14 陶文上器・深林	(4.5) /--/-	内面はLR 繩文を施す。内面は輪郭を施す。	良好	白色釉・白磁
19.21	14 陶文上器・深林	(4.7) /--/-	内面は輪郭を施す。縫合と土色。内面は輪郭を施す。	良好	白色釉・白磁
19.22	14 陶文上器・深林	(6.6) /--/-	縫合は8字で、内面は2つの輪郭文を中心とする輪郭である。内面は輪郭を施す。	良好	白色釉・白磁
19.23	14 陶文上器・深林	(7.4) /--/-	縫合はLR 繩文を施す。内面は輪郭を施す。	良好	白色釉・白磁
19.24	14 陶文上器・土割口瓶	(4.5) /--/-	縫合部に輪郭を施す。縫合と土色。内面は輪郭を施す。	良好	白色釉・白磁
20.25	14 砂利石筒・石瓶	長2.4 幅1.9 高さ0.4 重量 1.3kg。口径 1cm。	-	砂利石	-
20.26	14 砂利石筒・石瓶	長4.2 幅3.0 高さ1.0 重量 10.3kg。	-	黑色石筒	-
20.27	14 砂利石筒	長(7.7) 幅(5.1) 重量 85.4kg。刃先欠損。平底。	-	黑色石筒	-
20.28	14 砂利石筒・断石	長(5.5) 幅(4.3) 重量 103kg。	-	黑色石筒(安打)	-
20.29	14 實心石筒・断石	長5.8 幅4.8 高さ5.2 重量 214kg。	-	黑色石筒(安打)	-
20.30	14 砂利石筒・断石	長(12.8) 幅7.2 高さ6.8 重量 525kg。	-	黑色石筒	-

写 真 図 版



1. 調査区遠景① (北東から)



2. 調査区遠景② (西真上から)



1. 調査区近景（南真上から）



2. 基本土層A（東から）



3. 基本土層B（東から）



4. 基本土層C（西から）



5. 基本土層D（西から）



1. SU01 ① (北から)



2. SU01 ② (東から)



1. SU01 検出状況① (北から)



2. SU01 検出状況② (東から)



3. SU01 遺物出土状況① (北から)



4. SU01 遺物出土状況② (北から)



5. SU01 遺物出土状況③ (北から)



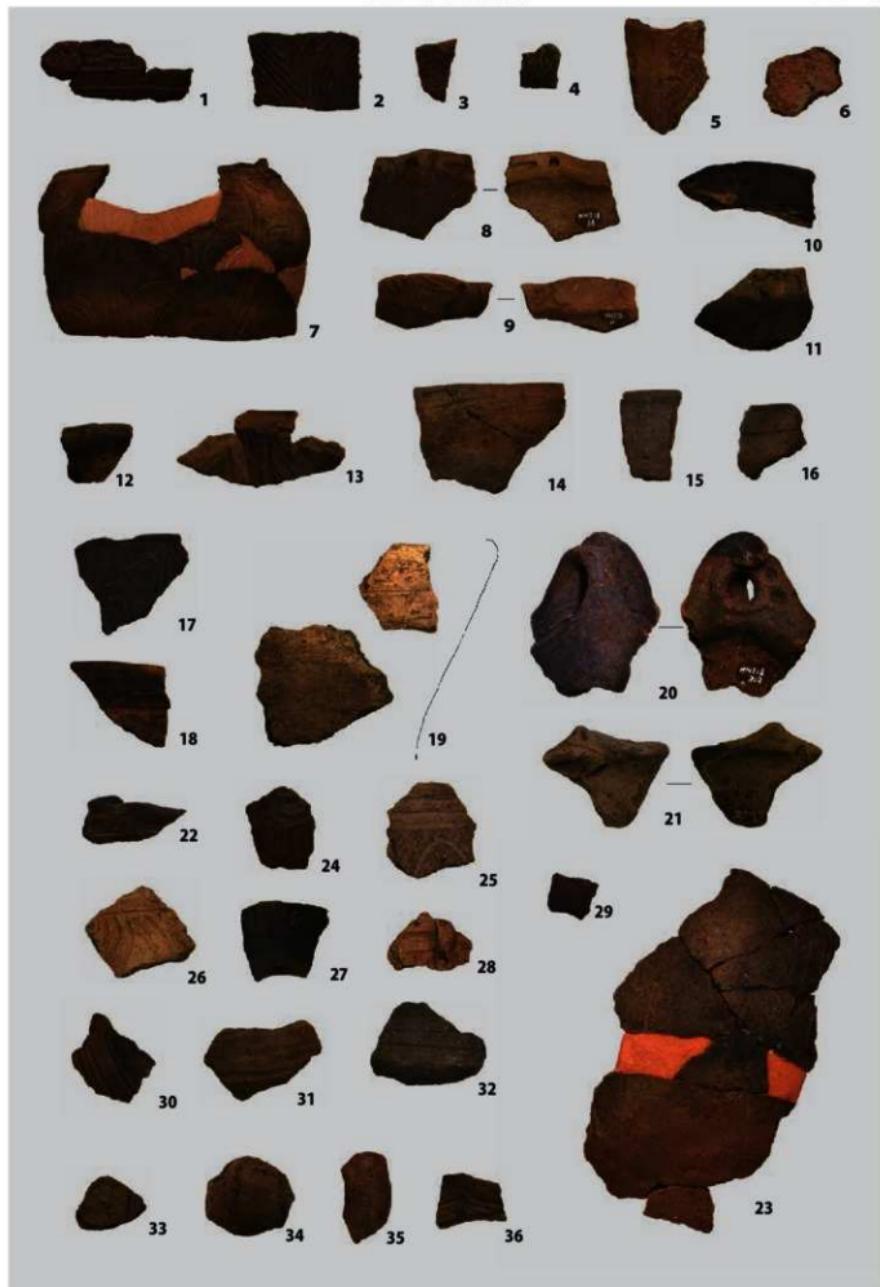
6. SU01 遺物出土状況④ (北から)



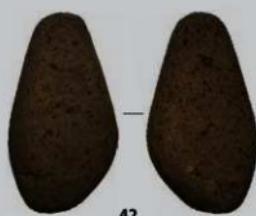
7. SU01 遺物出土状況⑤ (北から)



8. 作業風景



1. SU01 出土遺物①



1. SU01 出土遺物②



2. SK01 半截 (西から)



3. SK02 (南から)



4. SK02 半截 (南から)



5. SK03 半截 (南から)



1. SK04 (西から)



2. SK04 半截 (西から)



3. SK05 (南から)



4. SK05 半截 (南から)



5. SK07 半截 (西から)



6. SK08 (南から)



7. SK08 半截 (南から)



1. SK09 (南から)



2. SK09 半截 (南から)



3. SK10 (南から)



4. SK10 半截 (南から)



5. SK11 (南から)



6. SK12 (南から)



7. SK13 (南から)



8. SK13 半截 (南から)



1. SK14 (南から)



2. SK14 半截 (南から)



3. SK15 (南から)



4. SK15 半截 (南から)



5. SK16 (東から)



6. SK16 半截 (東から)



7. SK17 (東から)



8. SK17 半截 (東から)



1. SK18 (南から)



2. SK19 (南から)



3. SK19 半截 (南から)



4. SK20 (西から)



5. SK21 (北から)



6. SK22 (北から)



7. SK22 半截 (北から)



8. SK23・SK09 (南から)



1. SK23 半截 (南から)



2. SK24 (西から)



3. SK25 (西から)



4. SK25 半截 (西から)



5. SK26 半截 (南から)



6. SK27 (南から)



7. SK27 半截 (南から)



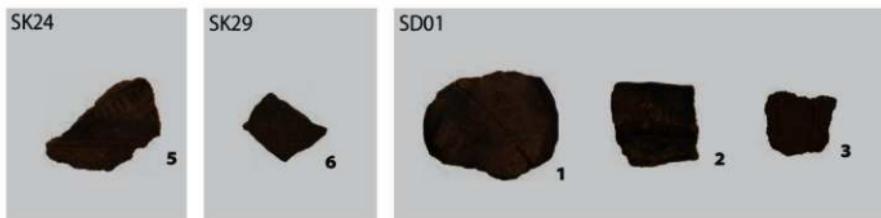
8. SK28 (西から)



1. SK28 半截（西から）



2. SK29（東から）



3. 土坑・SD01 出土遺物



1. SD01 (南から)



2. SD01 ベルト設定状況 (南から)



3. SD01 土層 A セクション (南東から)



4. SD01 土層 B セクション (南から)



5. SD01 土層 C セクション (南から)

遺構外



1. 遺構外出土遺物

報 告 書 抄 錄

ふりがな	はやしなかはらいちいせきじゅうはち							
書名	林中原 I 遺跡XⅢ							
副書名	水源地域整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書							
卷次	第6集							
シリーズ名	長野原町埋蔵文化財調査報告							
シリーズ番号	第42集							
編著者名	富田孝彦							
編集機関	長野原町教育委員会							
所在地	〒377-1392 群馬県吾妻郡長野原町大字長野原1340-1 TEL0279-82-4517							
発行年月日	西暦 2020年3月30日							
ふりがな 所収遺跡名	所在地	コード		北緯 (世界測地系)	東経 (世界測地系)	調査期間	調査面積 (m ²)	調査原因
		市町村	遺跡番号					
はやしなかはらいちいせき 林中原 I 遺跡	群馬県吾妻 郡長野原町 大字林	10424	45	365447	1386777	20190417 ～ 20190611	400	町営林団地 整備事業
所収遺跡名	種別	主な時代		主な遺構		主な遺物		特記事項
林中原 I 遺跡	集落跡	縄文時代		遺物集中 土坑 溝状遺構	1基 29基 1条	縄文土器・石器		縄文時代の土坑 群の検出
要約	本遺跡は町域北部の吾妻川流域帯に所在し、吾妻川の左岸段丘上に立地する。調査地点の標高は630m位である。縄文後期の遺物集中箇所1箇所、土坑29基、溝状遺構1条が検出された。出土遺物に関しては、縄文後期前葉塙之内I式期のものが大部分を占めるが、遺構外出土遺物の中には前期前半・後半、中期中葉、後期初頭の遺物も混在する。特に前期後半の諸礎b式併行の北白川下層II式期の深鉢が出土しており、西日本の交流を示す資料といえる。本遺跡は縄文中期後半から後期前葉にかけての拠点集落であることが判明しており、本調査地点はその東端の一様相を示していると考えられる。							

林中原 I 遺跡 XⅢ	
水源地域整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 第6集	
令和2年3月26日	印刷
令和2年3月30日	発行
発行	群馬県吾妻郡長野原町教育委員会
〒377-1392	群馬県吾妻郡長野原町大字長野原1340-1
TEL 0279(82)4517	FAX 0279(82)3115
印刷	朝日印刷工業株式会社